

(様式 16)

# 薬学教育評価

## 評価報告書

受審大学名 近畿大学薬学部

(本評価実施年度) 2023 年度

(作成日) 2024 年 3 月 1 日

一般社団法人 薬学教育評価機構

## I. 総合判定の結果

近畿大学薬学部医療薬学科（6年制薬学教育プログラム）は、薬学教育評価機構が定める「薬学教育評価 評価基準」に適合していると認定する。

認定の期間は、2031年3月31日までとする。

## II. 総評

近畿大学薬学部は、6年制の医療薬学科と4年制の創薬科学科を併設し、大学が掲げる「建学の精神」と「教育理念」、薬学部が掲げる「教育研究の理念」のもと、医療薬学科の「学習・教育目標」を「薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、優れたコミュニケーション能力ならびに問題解決能力を備えた薬剤師として活躍できる人材を養成する」と定め、それに基づいた「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）」、「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）」を制定し、6年制薬学教育を行っている。これらは、医療を取り巻く環境、薬剤師に対する社会のニーズを反映したものとなっている。

内部質保証の起点となる自己点検・評価は、薬学部及び医療薬学科における教育研究活動について、大学の主導のもとで実施されているが、その結果は公表されていない。この自己点検・評価に対して他大学の教員による外部評価も行われ、その結果が薬学部の全教員で共有され、教育研究活動の改善の礎となっている。

学修成果の評価については、「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」に掲げた資質・能力の項目ごとに、学生が各セメスターにおける目標設定と実行計画を立て、目標達成度を学生が自己評価して教員が形式的に評価する「学習ポートフォリオ」を作成し、運用している。この「学習ポートフォリオ」では、ルーブリック表を用いて、「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」に掲げた資質・能力の達成度を、学生と教員がそれぞれ評価し、結果を共有している。この評価結果を含め、アセスメント・ポリシーに示された評価指標についての質的・量的な解析は十分には行われてはいない。それらの解析を行い、その結果に基づき、近畿大学薬学部医療薬学科における薬学教育プログラムを今後、さらに充実させることを期待する。

### Ⅲ. 『項目』ごとの概評

#### 1 教育研究上の目的と三つの方針

本項目は、おおむね適合水準に達しているが、「学習・教育目標」や三つの方針の検証について懸念される点が認められる。

近畿大学は、未来志向の「実学教育と人格の陶冶」を「建学の精神」とし、「教育理念」として「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を掲げている。これらの「建学の精神」と「教育の理念」に基づき、薬学部では「教育研究の理念と目的・育成する人物像」を次のように近畿大学学則に定めている。

#### 『薬学部の教育研究の理念と目的・育成する人物像』

薬学部は、近畿大学建学の精神、すなわち「実学教育」と「人格の陶冶」に則り、『21世紀の生命科学、基礎薬学、創薬科学、医療薬学、衛生薬学などの基盤に立脚し、医療に貢献できる薬剤師を養成するとともに、これらの薬学分野での研究に貢献し、活躍できる人材の育成を行うことにより、人類の福祉と健康に奉仕すること』を理念としています。

これを実現するために、本学部の理念に共感する次のような資質を有する入学者を国内外から広く受入れ、薬に関する幅広い専門知識や最先端のテクノロジーに精通したグローバルに活躍できる人材を育成します。

さらに、薬学部医療薬学科（6年制）の「学習・教育目標」を次のように学則に定めている（ホームページで公開されている学則 p285）。

#### 医療薬学科の『学習・教育目標』

薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、優れたコミュニケーション能力ならびに問題解決能力を備えた薬剤師として活躍できる人材を養成する

この「学習・教育目標」に示された輩出する人物像は、医療を取り巻く環境、薬剤師に対する社会のニーズを反映したものとなっている。

薬学部の「教育研究の理念と目的・育成する人物像」及び医療薬学科の「学習・教育目標」は学則に記載され、ホームページに掲載して社会に向けて公表しているほか、履修要項や各セメスター開始時のガイダンス動画・資料等を通じて教職員及び学生に対して周知している。また、新入生に対しては、授業開始までに実施されるオリエンテーションにお

いても説明している。

大学の「建学の精神」及び医療薬学科の「学習・教育目標」に基づいて、三つの方針（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を次のように策定している。

#### 『医療薬学科のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）』

医療薬学科では、近畿大学の建学の精神である未来志向の「実学教育と人格の陶冶」に則り、「薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、優れたコミュニケーション能力ならびに問題解決能力を備えた薬剤師として活躍できる人材を養成する」という教育目標を達成するためのカリキュラムを策定しています。厳格な成績評価を行い、6年以上在学し、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力を以下に示します。

##### 1. 関心・意欲・態度

1. 医療に関する高い倫理観と責任感を有し、薬剤師の資質を活かして社会および地域に貢献すべきであるという使命感を持ち続けること。

2. 患者の立場を理解し、患者本位の医療の発展に寄与する意欲を生涯にわたって持ち続けること。

##### 2. 思考・判断

1. 生命の尊さを認識し、医療における様々な問題について倫理的な判断ができること。

2. 医療専門職としての役割を理解し、合意に基づいて自主的、かつ協調的に行動できること。

##### 3. 技能・表現

1. 多職種連携を実践できるコミュニケーション能力を身につけること。

2. 高度で多様化する薬物療法に関する基本的技能を修得し、医療の実践で応用できる能力を身につけること。

3. 薬学分野における基本的な研究技術を有し、薬学・医療の発展に応用できる課題発見・問題解決能力を身につけること。

##### 4. 知識・理解

1. 医療や人の健康に関わる者として必要とされる広い教養と、グローバル化に対応した言語力、自然科学に関する知識を身につけること。

2. 医療に関する様々な問題を理解するために、医療薬学分野の幅広い専門知識を身につけること。

ディプロマ・ポリシーは、医療薬学科の「学習・教育目標」を具体化したもの（「自己点検・評価書」表1-1-1）であり、卒業までに学生が身につけるべき資質・能力を9つの達成目標として設定している。これらを「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」の4項目に分類し、履修要項に記載するとともに薬学部ホームページにおいて公表している（「自己点検・評価書」表1-2-1）。

医療薬学科のカリキュラム・ポリシーは、教育目標とディプロマ・ポリシーに定めた資質や能力を実現するため、以下のように定められている。

#### 『医療薬学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）』

医療薬学科では、「薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、優れたコミュニケーション能力ならびに問題解決能力を備えた薬剤師として活躍できる人材を養成する」ことを実現するため、以下のような方針で、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した科目、および本学独自の科目を年次に応じたカリキュラムとして配置し、その体系性や構造はカリキュラムマップおよびカリキュラムツリーに明示しています。

#### <共通教養科目>

医療人に求められる広い教養、高い倫理および使命感を醸成するために人文・社会系の教養科目を、また、専門科目の理解に必要な基礎学力を養うために自然科学系の教養科目を提供します。定期試験等での成績評価を行い、双方向教育支援システムを用いる評価を奨励しています。

自主的、協調的かつ能動的に学修・行動する能力とコミュニケーション能力を醸成するため、少人数グループ討論授業を実施します。討論・発表の内容をルーブリックで評価します。

#### <外国語科目>

日本の医療をグローバルな観点から評価し、諸外国における医療制度や薬剤師業務を理解することで国際的にも活躍できる人材を育成するために、ネイティブ教員を含む語学専任教員による充実した語学教育プログラムを導入しているほか、医療英語、薬学英語に係る科目を充実させています。

#### <薬学基礎科目>

薬剤師の資質を活かして社会および地域に貢献するという使命感と、患者の立場を理解し、患者本位の医療の発展に寄与する意欲を醸成するために、初年次に専門性を持った教員によるオムニバス形式の薬学概論や医学部、医療施設、研究施設、企業等を訪問する早期体験学習を実施します。学修到達状況は、客観・論述試験および能動的学修による成果発表やプロダクトをルーブリックによるパフォーマンス評価によって評価します。

生命の尊さを認識して倫理的な判断力を醸成するために、グループ討議を取り入れた生命倫理を実施し、学修到達状況は、ルーブリックによるパフォーマンス評価、自己評価、他己評価によって評価します。

医療人として必要とされる広い教養と自然科学に関する知識を身につけるために、入学初期からリメディアル教育を含む化学入門、基礎化学、生物学入門、基礎生物学を実施し、さらに、物理化学、分析化学、有機化学、薬用資源学、生化学、人体生理学、情報科学などの薬学基礎科目を体系立てて実施します。これらの学修到達状況は、客観試験や論述試験で評価します。

#### <薬学専門科目>

薬剤師の役割を理解し、自主的、かつ協調的に行動できる力、医療や人の健康に関わるうえで必要とされる広い教養と幅広い専門知識を修得するため、病態薬理学、製剤学、薬物動態学、薬物治療学、公衆衛生学、漢方薬学、薬学統計学などの薬学専門科目の講義・演習・実習を体系立てて実施し、双方向・対話型講義を導入しています。修得した知識は客観試験や論述試験で評価し、実習や演習の学修成果は、技能・態度に適した方法で評価します。

また、高度で多様化する薬物療法に関する基本的技能の修得や多職種間での連携を実践できるコミュニケーション能力を醸成するため、実習では、小人数での参加体験型課題やグループディスカッションを積極的に実施します。学修到達状況は、レポートやルーブリックによるパフォーマンス評価によって評価します。

さらに、基本的な研究技術と薬学・医療の発展に応用できる課題発見・問題解決能力を身につけるために、3年次後期以降に学生が主体的に研究に携わる卒業研究を実施します。卒業研究では、医療・研究倫理に関する教育も行い、様々な問題について倫理的な判断ができる力を涵養しています。これらの学修成果は、プロダクトなどをルーブリック表を用いることで評価します。

#### <薬学臨床科目>

医療専門職としての薬剤師の役割を理解し、自主的、かつ協調的に行動できる力、薬剤師として必要とされる広い教養と医療に関する様々な問題を理解できる幅広い専門知識を修得するために、医薬品情報学、治験、社会薬学、医療薬事関係法規、医薬連携学習、フィジカルアセスメント、臨床薬学実務実習などに関する薬学臨床科目の講義・演習・実習を体系立てて実施し、双方向・対話型講義を積極的に導入します。修得した知識は客観・論述試験で評価し、実習や演習では到達度やパフォーマンスの質を評価します。

薬剤師に必要な調剤や服薬指導に関する基本的な技能を修得し、医療の実践で応用できる能力を身につけるとともに、多職種連携を実践できるコミュニケーション能力を高めるために、薬学臨床科目の実習では、グループワークなどのアクティブラーニングを採り入れ、知識の評価とパフォーマンス評価を行います。

修得した専門知識・技能・態度を基に、多種多様な薬物療法や技術に触れて薬学・医療の発展に応用できる課題発見・問題解決能力を醸成させるために、4年次～5年次にかけて臨床現場で実践的な体験で知識を活かし技能を高める臨床薬学実務実習を実施します。医療に関する高い倫理観と責任感を有し薬剤師の使命感および患者本位の医療の発展に寄与する意欲を培い、医療における様々な問題について倫理的な判断ができるように、1年次から5年次までシームレスに薬学臨床科目の実習を実施します。その到達度はルーブリックによるパフォーマンス評価によって評価します。

カリキュラム・ポリシーでは、医療薬学科の「学習・教育目標」とディプロマ・ポリシーに定めた資質や能力を達成するため、履修すべき「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した科目群及び大学独自の科目群を「共通教養科目」、「外国語科目」、「薬学基礎科目」、「薬学専門科目」、「薬学臨床科目」に分類し、それぞれ教育内容・方法と、「外国語科目」以外の各分類に属する科目における成績評価の方針等が記載されている。

カリキュラムツリー（基礎資料1）やカリキュラムマップ（ホームページ）から、ディプロマ・ポリシーに定めた資質や能力と各科目の関係がある程度知ることができる。また、項目2「内部質保証」のところで記すように、これらの資質・能力の修得度をいつどのようにして測定するか、学修成果の評価の在り方についてはアセスメント・ポリシーと学修成果の評価計画を策定している。このアセスメント・ポリシーには教育課程をアセスメントするための評価指標が記載されているが、その指標の一つとなる、個々の学生の学修成果の達成度を学生自身がどのように確認するかについては記載が明確ではないので、学生に対してわかりやすく伝わるように表記し、カリキュラム・ポリシーに記載することが望

ましい。

カリキュラム・ポリシーには評価方法が記載されていない科目群（外国語科目）もあったが、訪問調査時には追記されている。しかし、学習の質を重視し、学生のパフォーマンスと整合する学習・教授方法及び、成績評価の方法を設定してカリキュラム・ポリシーに記載しているというには具体的ではないので、学ぶべき資質・能力が身につく学習・教授方法及び、評価方法を適切に設定してカリキュラム・ポリシーに記載することが望ましい。

医療薬学科では、教育理念と目的に共感したうえで、定められたカリキュラムを完遂し、ディプロマ・ポリシーを達成できるポテンシャルを有する学生を求めるため、アドミッション・ポリシーを以下のように定めている。

#### 『医療薬学科のアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）』

医療薬学科では、近畿大学建学の精神、すなわち「実学教育」と「人格の陶冶」に則り、21世紀の医療に貢献できる薬剤師を養成するとともに、医療薬学分野での研究に貢献し、活躍できる人材の育成を行うことにより、人類の福祉と健康に奉仕することを目的としています。これらを実現するために、次のような資質を有する入学者を国内外から広く受入れ、医療薬学に関する幅広い専門知識や最先端のテクノロジーに精通したグローバルに活躍できる人材を育成します。

#### 求める5つの資質

1. 医療薬学を学ぶ上で十分な基礎学力と幅広い教養を有し、将来薬剤師として、臨床あるいは研究・開発などの分野で社会に貢献したいという強い意欲を持つ人。
2. 生命に対する尊厳の念を持ち、薬剤師となるために必要な使命感と倫理観、豊かな人間性を兼ね備えた人。
3. 科学的な思考力と問題解決能力、優れたコミュニケーション能力を備えた薬剤師として、医療の発展に貢献しようとする意欲のある人。
4. 独創性、探究心、課題解決能力を有し、豊かな創造力と忍耐力を持って最先端の医療薬学研究に取り組む意欲のある人。
5. グローバルな視野を持ち、薬剤師として人類の健康と福祉に貢献しようとする意欲のある人。

薬学部の入学試験では、学力試験の他、薬学部教員による口頭試問・高校時の学業成績などにより、上記の資質を有する多様な人材を選抜します。また、薬学部医療薬学科に入学



するまでに、次のような教科の内容を理解していることが望めます。

理解が望まれる教科内容

国語

日本語の読解力、表現力、論理的な思考力

外国語

目的に応じて情報や考えを正確に理解し表現できる英語の能力

数学

指数関数、統計及び微積分（数学Ⅰ・数学A 及び 数学Ⅱ・数学B）

理科（化学）

理論化学、無機化学及び有機化学の基礎的知識と計算力（化学基礎及び化学）

理科（生物）

基礎的知識、実験に基づく考察力及び計算力（生物基礎及び生物）

理科（物理）

電磁気、力学及び熱力学の基礎的知識と計算力（物理基礎及び物理）

医療薬学科のアドミッション・ポリシー（「自己点検・評価書」表1-2-3）には、入学生に求める資質を5つ示し、入学後の学修を順調に進められるように、入学前に履修しておくことが望まれる科目を明示している（「自己点検・評価書」表1-2-3）。このアドミッション・ポリシーには、どのような学生を求めるのかについて記載されているが、複数の選抜試験によって多様な学生をどのように評価・選抜するか等については具体的な記載がないので、アドミッション・ポリシーに記載する必要がある。

三つの方針は、薬学部ホームページに掲載し、広く社会や受験生に公表している。また、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーは履修要項に掲載し、学生には年度初めのガイダンス動画・資料でも周知している。

医療薬学科の三つの方針の検証と改定は、全学組織である学士力強化検討委員会が示した再検討指針（「自己点検・評価書」表1-3-1）に沿って2020年度に行った。これらの指針に加え、薬剤師を取り巻く環境変化を踏まえ、カリキュラム検討委員会や教務委員会、教授会等で適宜、修正・検証されている。しかし、教育研究上の目的にあたる「学習・教育目標」の検証・改訂については行われていない。「学習・教育目標」や三つの方針を定期的に検証するための指標や計画を立て、明文化し、検証する必要がある。

## 2 内部質保証

本項目は、おおむね適合水準に達しているが、自己点検・評価の公表について懸念される点が認められる。

近畿大学では、教育研究活動の点検・評価活動を実施するため、「近畿大学自己点検・評価委員会規程」を定め、学長が統括する「近畿大学自己点検・評価委員会」の下、大学基準協会の点検項目に準じて、自己点検・評価を行っている。さらに、薬学部では、教員と事務職員からなる「自己点検評価委員会」を設け、自己点検・評価の基本方針、実施に関する事項、評価書の作成及び結果の公表等を審議している。さらに、大学全体として「内部質保証方針」を定めるとともに、薬学部では「内部質保証推進委員会」と「IR推進委員会」を設置し、内部質保証を推進している。これら「自己点検評価委員会」、「内部質保証推進委員会」、「IR推進委員会」をはじめ「教務委員会」、「カリキュラム検討委員会」が連携した組織的な体制のもと、教育研究活動の改善に努めている。しかし、「近畿大学自己点検・評価」のホームページ (<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/self-inspection/whole-school/>) には「近畿大学自己点検・評価委員会」が行っている自己点検・評価書が公開されているが、2021年度の自己点検・評価書の中には薬学部医療薬学科に関する記述は3か所だけである。

近畿大学では、機関（大学）、教育課程（学部・学科）、科目の3レベルに対して、三つの方針の達成状況、教育効果、並びに学生の学修成果に対する測定・評価指標を記載したアセスメント・ポリシーを定めている。このアセスメント・ポリシーに記載された評価指標に基づいて、三つのポリシーの達成状況、教育効果、並びに学生の学修成果を評価し、PDCAを回しているとしている。「科目」レベルでは、授業評価アンケートとリフレクションペーパーを用いて教育の改善・向上につなげているが、ディプロマ・ポリシーに記載された資質・能力の達成状況に関する評価は始まったばかりであり、「教育課程（学部・学科）」レベルでの評価が十分に行われているとは言えないので、改善が望まれる。

ホームページ等では公開されていないが、「近畿大学自己点検・評価委員会」が提出を求めている「全学自己点検評価資料」の中には、大学基準協会の点検項目に準じて行われた、薬学部医療薬学科の教育研究内容に関する自己点検・評価の結果が記載されている。さらに、この自己点検・評価に対して、包括連携協定を締結している他大学の教員による外部評価も行われ、その結果を薬学部の全教職員で共有している。

この他、全学部教員が毎年作成する「教育業績」、「研究業績」、「管理運営活動」及び「社会活動」の4項目からなる「教員業績評価自己申告表」とその根拠となる参考資料を作成

し、教育研究活動の点検・評価を行っている。「教育ピックアップ：自己点検・評価の公開」のホームページ (<https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/research-and-education/pickup/self-assessment/>) には、2015（平成27）年度に行われた本機構による第1期薬学教育評価の結果と自己評価21における自己点検・評価書、薬学部活動報告書、授業評価アンケート結果、卒業アンケート結果、入学年次別の在籍及び卒業状況等が掲載され、別途「教員業績評価自己申告表」が作成されている。

薬学部では「学習ポートフォリオ」を作成している。その中で、医療薬学科のディプロマ・ポリシーに記載された各資質・能力に対して、学生が期毎に自己到達目標を設定し、その達成度を自己評価すると同時に、各資質・能力に関してルーブリック表を活用した自己評価と、該当科目の成績に基づく教員による評価を行っている。それらの評価結果に対して、学生はアドバイザー教員からのコメントや指導を受け、学修上の問題点を共有している。医療薬学科では、学生の評価結果の変化を学年進行に伴い解析し、教育カリキュラムの適切性を検証しているとしている。一方、「卒業アンケート」が実施されているが、学生生活の振り返りや汎用的能力の修得度に関する設問が多く、学生生活の満足度を知ることにはできるが、教育カリキュラムを検証するためのデータとしては不十分である感は否めない。また、「IR推進委員会」が入学年次別の在籍及び卒業状況に関する解析を始めたとしているが、PDCAサイクルを回すところまでには至っていない。

近畿大学薬学部は「教育ピックアップ：自己点検・評価の公開」のホームページ (<https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/research-and-education/pickup/self-assessment/>) を設け、外部評価の結果や薬学部活動報告書、授業評価アンケート結果、卒業アンケート結果、入学年次別の在籍及び卒業状況等を公開している。しかし、「近畿大学自己点検・評価委員会」が行っている「全学自己点検評価資料」に記載された、薬学部医療薬学科の教育内容に関する自己点検・評価の結果は公開されていないので、これらをホームページ等で公開する必要がある。

近畿大学薬学部では、2015（平成27）年度に行われた本機構による第1期薬学教育評価において改善すべき点として指摘を受けた事項に対して、幾つかの未改善事項は残されているものの、改善に向けた取り組みが行われている。さらに、「内部質保証推進委員会」をはじめ内部質保証を推進するための組織が整備され、教育研究活動の改善に向けて着手しているところであり、今後さらなる内部質保証の推進を期待する。

### 3 薬学教育カリキュラム

#### (3-1) 教育課程の編成

本項目は、適合水準に達している。

近畿大学薬学部医療薬学科の教育カリキュラムは、カリキュラム・ポリシーに基づいて構築されている。また、2022年度入学生から新カリキュラム（R4新カリ）に移行している。

教養教育カリキュラムは、主に1年次に開講されており、共通教養科目として人間性・社会性科目群、課題設定・問題解決科目群、地域性・国際性科目群及びスポーツ・表現活動科目群の4学群から構成され、各学群から2単位以上かつ合計12単位（R4新カリでは10単位）を修得し、化学及び生物を含む4科目開講されている専門基礎科目から6単位（R4新カリでは学部基礎科目8単位）と必修科目である「基礎ゼミ（2単位）」を含めて計20単位を修得要件としている。

語学教育カリキュラムは、主に1及び2年次に開講されており、共通教養科目、外国語科目、専門英語の3区分に配置されている。外国語科目のうち、英語の中から必修6単位を含む8単位、英語及び初修外国語の中から4単位、計12単位を修得要件とし、「読む・書く・聞く・話す力」を体系的かつ継続的に修得できるようにしている。さらに、専門英語4科目から4.5単位（R4新カリでは3単位）を修得要件とし、医療の進歩・変革に対応するための語学教育プログラムを設定している（「自己点検・評価書」表3-1-1-2）。

「人の行動と心理に関する教育」カリキュラムは、修学年限を通して開講されている。共通教養科目の人間性・社会性科目群の選択4科目と専門科目Ⅱ群の必修6科目及び選択必修1科目、実務実習関連科目からなり、薬剤師の使命や薬剤師に求められる倫理観を順次的に身につけることができるよう体系的に構築されている（基礎資料1）。これらの科目を通して、DP1-1やDP1-2、DP2-1、DP2-2、DP3-2、DP4-2に示した資質・能力を修得する。

「薬学教育モデル・コアカリキュラム平成25年度改訂版」における各項目については、専門科目Ⅰ群の化学系及び生物系、専門科目Ⅱ群、及び実習・演習に分類される科目を通して、順次的かつ体系的に教育している（基礎資料2、「自己点検・評価書」表3-1-1-4、表3-1-1-5、表3-1-1-6）。しかし、薬学において重要と考えられる「生化学」や「微生物学」、「免疫学」等が「選択必修科目」となっている。これらの科目は履修指導によって全員が履修しているが、履修しない学生や合格しないまま卒業する学生が出てくる可能性があることから、薬学において重要と考えられる科目群は「必修科目」として開

講することが望ましい。

大学独自の教育は、初年次に開講される共通教養科目や専門科目の中で行っている。在宅医療や災害医療について医学部と連携して学ぶ「医薬連携学習（4年次前期）」、医学部各科の臨床教員から代表的疾患について学ぶ「臨床医学概論（4年次後期）」、近畿大学病院薬剤部の薬剤師から薬剤師業務等について学ぶ「医療薬学総論（4年次後期）」のほか、近畿大学病院の医師、看護師、薬剤師からがん治療について学ぶ「がん治療学医薬看連携講義（6年次前期）」などを開講している。

問題発見・解決能力の醸成のための教育は、専門科目Ⅱ群に分類される5科目と早期体験学習、総合薬学研究を通して行われている。学生は3年次後期に研究室へ配属され、6年次前期までの期間、研究を行う。さらに、まとまった研究時間が確保できるよう、授業科目の時間割に配慮している。

近畿大学薬学部医療薬学科の教育カリキュラムは、薬学共用試験や薬剤師国家試験の合格率の向上のみを目指した編成になっていないと推察できるが、「自己点検・評価書」には記述されていない。質問に対する大学の回答によると、アクティブラーニングを取り入れた授業や実習・演習系科目、3年次後期から6年次前期にわたる「総合薬学研究1～3」など、問題発見・解決能力を醸成するための教育を実施し、語学教育にも力を入れていることから、薬学共用試験や薬剤師国家試験の合格率の向上のみを目指した編成にはなっていない。

教務委員会、カリキュラム検討委員会において教育課程及びその内容、方法の適切性を検証し、その結果に基づいて2015（平成27）年度と2022年度にカリキュラム改訂を実施したとしているが、その検証方法や検証結果、改善や向上に向けた改定内容に関して「自己点検・評価書」には記述されていない。現行の2022年度カリキュラムは、カリキュラム検討委員会が平成27年度カリキュラムの問題点を抽出して改定案を策定し、教務委員会が改定案を検討した後に教授会に諮り、決定されたことが追加資料から確認できた。

### （3－2）教育課程の実施

本項目は、おおむね適合水準に達しているが、一部の科目の成績評価について懸念される点が認められる。

近畿大学薬学部医療薬学科では、カリキュラム・ポリシーに基づいて教育が適切に行われている。卒業に必要な薬学専門科目156単位（2022年度カリキュラムは160単位）のうち、講義科目が90単位（2022年度カリキュラムは101単位）、演習・実習科目が66単位（2022年

度カリキュラムは59単位)となっており、適切な学習方法による教育が行われている。

薬学基礎科目は主に講義形式で授業を行っている。科学的思考力の醸成に役立つ技能及び態度を修得するため、実習・研究を1年次から6年次まで13科目(49単位)を配置している。そのうち、3年次前期までの実習は8科目(14単位)あり、4年次から5年次に行う「実務実習事前学習」(7単位)及び「臨床薬学実務実習」(20単位)、3年次後期から6年次前期まで行う「総合薬学研究」は3科目(8単位)を配置している。さらに、6年次前期「総合薬学演習」では、基礎薬学部門の教員と臨床薬学部門の教員がペアを組み、症例シナリオを例にとりながら基礎と臨床の知見を相互に関連づける授業を行っている。このように、カリキュラムに配された各科目は、その目的・目標に応じた授業形式(講義、演習、実習)で実施され、評価されている。

薬学教育モデル・コアカリキュラム(平成25年度改訂版)の「F薬学臨床に関する実務実習の前に行うべき内容に関する科目群」については、「薬学実務実習に関するガイドライン」に基づいて各SBOs(Specific Behavioral Objectives)に応じた学習方略による教育を行っている。主に知識の習得を目的とした「調剤学(4年次前期)」、「ファーマシューティカルケア(4年次前期)」、「薬と経済(4年次前期)」と、技能及び態度の修得を目的とした「フィジカルアセスメント(4年次前期)」、「実務実習事前学習(4年次後期)」を通して教育を行っている。

「臨床薬学実務実習」は、原則として代表的な8疾患を全て網羅できる施設において、近畿地区調整機構で作成した実習グループの薬局及び病院で実施している。実習施設は、近畿地区調整機構で割り振られた薬局と病院、及び近畿大学の2病院に割り振っており、学生の希望や住居地を考慮して決定している。実務実習施設ごとに実務実習実施に関する契約書を締結し、学生から守秘義務誓約書を大学に提出してもらうことにより、実務実習中の患者情報等の守秘を学生に義務付けている。実務実習は、「薬学実務実習に関するガイドライン」に沿って実習施設と密に連携をとって行っている。各実習期(1～2期、2～3期及び3～4期)の実習前に、各実習グループで実施されるグループ協議会に薬局・病院・施設担当教員が参加し、実習前の打ち合わせ、「実務実習実施計画書」の内容確認及び意見交換を行っている。さらに、施設担当教員と学生が事前に実習施設を訪問して、実習内容等の最終確認を行っている。実務実習開始後は、「実務実習指導・管理システム」を用いて施設と連携を図っており、このシステムにより8疾患の実習実施状況を把握している。学生は週末には「1週間の振り返り」を記入し、指導薬剤師及び施設担当教員が確認とコメントを残している。また、実習期間中の土曜日2日を登校日として設定し、施設担当教

員との面談や実務実習関連講義を行っている。さらに、実習終了後に「実習全体の振り返り」を行っている。形成的評価の「測定」、「価値判断」及び「フィードバック」は、主に指導薬剤師が行い、必要に応じて実習中1～2回行う実習施設訪問の際に施設担当教員が行う。「フィードバック」は口頭で学生に伝えるとともに、実務実習記録のコメント欄に記載し、その記録を最終成績に反映させている。また、施設担当教員は、「病院薬局実務実習指導教員報告書」により実習実施状況を実務実習実施委員会と情報共有している。学生は実習期間中に指導薬剤師の指導のもとで選定したテーマ（症例報告など）をパワーポイントファイルにまとめ、成果報告として実務実習終了後に提出している。実務実習終了後には、5年生全員が参加する実務実習報告会を開催し、選抜された学生10名による口頭発表と学生20名によるポスター発表を実施している。また、報告会で選抜されなかった学生については、各研究室単位で実務実習についての口頭発表を行っている。

近畿大学薬学部医療薬学科では、修学年限を通して、グループワーク、ディスカッション、ディベート等のアクティブラーニングや反転授業を積極的に取り入れている。「機器分析学」ではWebツールを活用して反転授業を行い、「臨床薬物動態学」や「薬効薬理処方解析」、「薬学統計学」では、学習支援システムを活用している。さらに、双方向授業を円滑に進めるツールを企業と共同開発し、教育に活用している。

個々の科目における成績評価の方法は、講義、演習、実習等の科目の特性に基づき設定され、薬学部履修要項及びシラバスに明記され、各学年の履修ガイダンスにおいて学生に周知されている。複数の評価項目がある場合には、その合計が100%（評点100点）となるようにしている。科目の最終評価において60%（評点60点）以上を合格とし、再試験の評価は最高点を60点として評価することを学生に周知している。さらに、評点が90点以上を秀、80～89点を優、70～79点を良、60～69点を可、59点以下を不可と表示し、成績証明書には秀・優・良・可・不可と表記している。また、「臨床薬学実務実習」や「総合薬学研究1～3」といった一部の実習科目では、合格・不合格で表示するものもある。「臨床薬学実務実習」では、病院薬局実務実習評価基準一覧に基づき、また、「総合薬学研究1～3」は基本事項、研究計画と遂行、技能、考察といった評価項目についてルーブリック評価し、さらに「総合薬学研究2」と「総合薬学研究3」では研究発表の評価点を加えて総合評価したうえで、60点以上を合格としている。4年次の「総合演習I」では、外部試験を利用して成績を評価しているので、授業を担当した学内教員による試験に変更するように、改善する必要がある。

2014（平成26）年度以降の入学生の成績評価の指標にはGrade Point（GP）に基づくGP

average (G P A) 制度を導入している。その概要、算出法、活用については薬学部履修要項において示されており、新入生オリエンテーションで学生に周知している。なお、現状では進級要件や卒業要件にG P Aを適用していない。

各科目の担当教員はシラバスに記載した評価方法及び基準に基づいて厳格に成績評価を行っている。複数の教員が担当する科目では、主担当教員が担当教員から報告される成績を集計したうえで最終の成績としている。学生個々の成績は、設定された期間内に科目担当教員によって成績照会システムに登録され、教員は登録結果を印刷して保管している。また、成績を算出した根拠となる試験問題、採点済み答案（マークシート問題の場合はデータ処理した採点結果）、提出レポート等の資料は、原則1年間保存している。

個々の履修科目について、前期は8月下旬、後期は2月中旬に成績照会システムによって暫定成績が学生に通知され、再試験対象者に受験申請を促している。最終的な成績評価の結果は、前期は9月上旬、後期は3月上旬に、学生、保護者及びアドバイザー教員に対して成績照会システムによって通知している。

成績表には上記の評点とともに評価基準も記されており、さらにG P A値のほか、入学時からの通算成績の平均点、学科内での席次、科目分類別の単位修得状況も記載されている。

成績評価に対しての学生からの異議申し立ては、指定された期日までに薬学部学生センターあるいは学生支援システムで照会手続きを行うこと、と薬学部履修要項に明記している。異議申し立て期間及びその方法は、定期試験の結果が通知される際に、薬学部学生センターより学生支援システムを介して学生に通知している。薬学部学生センターは、学生からの異議申し立て内容を科目担当教員に連絡し、教員の書面による回答を学生に通知している。

薬学部医療薬学科の進級判定基準（必要単位数）は、カリキュラムごとに設定されており、薬学部履修要項に記載されている。また、新入生オリエンテーション及び各学年のガイダンスにおいても学生に周知している。

毎年3月に助教以上が出席する学部会議において全学生の単位修得状況をチェックし、その後、教授会において進級基準に適合するかを判定している。

薬学部医療薬学科のディプロマ・ポリシーには、「厳格な成績評価を行い、6年以上在学し、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与します。」と明記している。卒業認定の判定基準は、「卒業資格の要件」として設定し、薬学部履修要項に卒業要件と必要な単位数を示している。また、学生には年度初めに履修ガイダンスを行い、



全学生に進級要件とともに周知している。

学生が卒業時に身につけるべき資質・能力は、ディプロマ・ポリシーにおいて4つに分類し、DP 1-1からDP 4-2までの9項目に具体化して示している（「自己点検・評価書」表1-2-1）。これらの達成状況を測る指標として、カリキュラムマップに各DPと科目との関連性を示し、各DPに該当する科目群の修得を単位数として反映させ、これにより資質・能力の達成とみなしているが、直接測定しているわけではなく、現状では卒業認定の判定基準は、「卒業資格の要件」に示した単位数のみである。一方、2022年度より新たな学習ポートフォリオを導入し、これを用いてディプロマ・ポリシーに掲げた資質・能力の評価を行う予定にしている。4年次前期まではDPごとに目標設定と実行計画を Semester 開始時に策定させ、Semester 終了後に目標到達度を形式的に評価する。4年次後期以降は、形式的評価と同時に各DPへの達成度をルーブリックにより学生本人と教員が評価し、卒業時に「A」評価以上となるように指導している。

毎年2月上旬に助教以上が出席する学部会議において学生の単位修得状況をチェックし、その後、教授会において卒業認定の判定基準に適合するかを判定している。

薬学部では、アドバイザー教員あるいは科目担当教員が学生の日常的な履修指導の他に、以下に示すような履修指導を行っている。

新入生には入学時オリエンテーションの一環として履修指導ガイダンスを実施しており、教育カリキュラムをはじめ履修方法、履修上の注意点、進級・卒業基準等について周知している。また、「基礎ゼミ」（1年次前期）の第1回で、アドバイザー教員が履修登録方法、試験の種類や受験資格、成績評価、進級・卒業基準等について再度説明を行っている。

2～6年次の学生に対しては、年度当初に行われるガイダンスで履修指導を行っている。また、留年生に対しては、4月の初回講義が始まるまでに留年生ガイダンスを実施している。このガイダンスでは、留年した学生にアドバイザー教員と学生指導委員が学修指導を行うとともに、当該年次の科目履修計画についてもアドバイスをしている。留年生は履修規程の範囲内で、直上級年次の科目の履修が認められている。また、前期の成績が確定したときに、複数の科目で不合格となった学生には、アドバイザー教員が進級要件を踏まえたうえで履修指導を実施している。さらに、「学習ポートフォリオ」の評価の中で、目標達成度や目標設定・計画に改善が必要と考えられる学生についても、面談あるいはメール等により指導を行っている。

4年次後期においてC B T（Computer Based Testing）及びO S C E（Objective Structured Clinical Examination）に合格し、「臨床薬学実務実習」を履修する学生には、

「薬学実務実習に関するガイドライン」を踏まえた実務実習ガイダンスを実施し、実務実習の履修上の注意点や心構え等について周知している。

卒業延期者に対しては、3月上旬に医療薬学科長及び教育専門部門の教員により翌年度4月以降の卒業要件を満たすための科目履修について履修指導を行っている。

### (3-3) 学修成果の評価

本項目は、おおむね適合水準に達しているが、学修成果の評価結果の解析と活用について懸念される点が認められる。

近畿大学薬学部医療薬学科では、2022年度入学生からカリキュラムを変更しているため、1年生はカリキュラム改訂により新しいカリキュラム・ポリシーに基づき、また、2～6年生は旧カリキュラム・ポリシーに基づき、評価計画に沿って学修成果の評価が実施されている。

入学から卒業まで学生が身につけるべき資質・能力の評価は、「学習ポートフォリオ」と大学のWebシステムを用いて行っている。2021年度は全学部共通のポートフォリオを用いて実施したが、医療人に必要とされる資質や医療薬学科のディプロマ・ポリシーに沿った評価には不十分であったことから、薬学部で独自に「学習ポートフォリオ」を作成し、2022年度より評価を始めた。この「学習ポートフォリオ」を用い、各学年の前・後期の Semester 開始時に学生自身が到達目標を設定し、Semester 終了後に達成度を自己評価するとともに、アドバイザー教員がフィードバックすることにより学生の到達度を形成的に評価している。また、4年次後期以降は、ディプロマ・ポリシーの達成度について、学生と教員がルーブリック評価に基づいた「S, A, B, C」の4段階の評価を行っている。これにより、学生自身が「学生生活の目標・実行計画」に基づいた評価を振り返り、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力の達成度がすべて卒業時には「A」以上の評価となることを求めているとしている。現状の教員による評価については、客観性や信頼性が十分に担保されていないので、教員間で評価基準を一致させるような努力が望まれる。

実務実習を行うために必要な資質・能力を修得していることは、薬学共用試験センターの提示した基準点に基づいて確認している。C B Tは「近畿大学C B T実施マニュアル2022年度版」に基づき、公正かつ厳格に実施されている。O S C Eは「近畿大学O S C E実施マニュアル2022年度版」に基づき、公正かつ厳格に実施されている。2021年度薬学共用試験（C B T及びO S C E）の実施時期、実施方法、合格者数及び合格基準は年度初めに薬学部ホームページで公表している。

学修成果の評価は、2021年度までは、ディプロマ・ポリシーに設定した卒業時に身につけるべき9つの資質・能力の獲得に関連した科目の修得状況の確認と解析により行っていた。ここ数年は、2年次から3年次への進級率が低かったが、2年次のカリキュラムが過密であり、また、科目間で重複する項目もあったことから科目の統廃合を行ったとしている。また、学生の基礎学力の低下が懸念されたことから、基礎的学力を強化する1年次の学部基礎科目に関する卒業要件を旧カリキュラムの4科目中3科目から4科目必修へと変更した。

2022年度からは、各科目の単位認定の他に、「学習ポートフォリオ」を用いて半期ごとに学生の学修到達度に関して教員が形成的評価を行っている。また、4年次後期以降は、教員がディプロマ・ポリシーの達成度に関する評価も行い、入学から卒業時まで学生が身につけるべき資質・能力について継続的に評価している。それらの学修成果の評価結果の解析に基づき、教育課程の編成及び実施の改善・向上をさらに推し進めることが望まれる。

#### 4 学生の受入れ

本項目は、適合水準に達している。

近畿大学では、入学試験担当副学長を実施本部長、学部長の中から1名を副本部長とし、大学運営本部長や入学センター事務部長、試験を実施する各学部の学部長や事務（部）長などで構成する「入学試験実施本部」を設置し、入学試験を実施している。さらに、各入学試験実施前に、全ての試験監督者と事務担当者が一堂に会し、全体打ち合わせを行っている。この打合せでは、監督要領や、過年度に発生したトラブルなどのケーススタディ、不正行為の未然防止など、特に注意を要する事項について説明されている。

さらに、副学長を出題委員長とし、副委員長3名のもと、科目担当出題委員からなる入学試験出題委員会を組織し、問題の作成及び質疑への対応等を行っている。試験終了直後には外部機関による検証を行っている。

入学者選抜の方法については、全学部統一の「入学試験要項」で提示している。

入学試験実施後の入学者の選抜は、薬学部学生センター事務長の選抜案について学部会議及び教授会で協議したのちに大学協議会で審議、承認されている。

入学者選抜は、個別学力試験を課す4種の「一般入試」と「推薦入試（一般公募）」及び個別学力試験を課さない2種の「推薦入学試験」を実施している。個別学力試験を課す「一般入試」では「英語」、「数学」、「理科（物理、化学、生物から1科目選択）」、「推薦入試（一般公募）」では「英語」、「理科（化学あるいは生物から選択）」をマークシート方式の試験

にて実施している。「理科」では、知識を測定するだけではなく、技能・思考力・判断力・表現力を問う設問が含まれているとしている。また、大学入学共通テストを使用する3種の「一般入試（共通テスト利用方式）」では、「英語」、「数学」、「理科（物理、化学、生物から1科目選択）」に加えて「国語」も選択できる入試区分もあり、表現力や論理的思考力等、幅広い多面的な能力を有する学生の確保を目的としている。これらすべての入学者選抜において出願書類として調査書が提出されている。「推薦入試」では学力の3要素の一つである「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」や医療人を目指す者としての資質・能力について面接試験を通して評価しているが、「一般入試」ではその評価が十分に行われていないので、適切に評価することが望まれる。

近畿大学では、障がい等を理由に受験や進学の手がかりが失われることがないように、試験時間の延長や別室受験等の対応を準備して入学試験を行っている。「入学試験要項」の中に「障がいのある人、不慮の事故による負傷者・疾病者の受験及び修学上の配慮に関する申し出について」という項目を設け、出願前に受験時に特別な配慮を必要とする受験生の相談を受けることを明記しており、相談依頼があった場合には専門家が示す必要な配慮事項内容と大学として対応が可能な支援内容をすり合わせる目的で、専任教員及び学生センター職員が面談している。さらに、出願後に不慮の事故によって負傷あるいは疾病を負った受験生に対しても同様な対応をとることを明記している。

近畿大学薬学部医療薬学科では、「推薦入試（一般公募）」及び「附属高等学校、準附属高等学校（協定校）及び指定校特別推薦入試」による合格者に対しては、入学者の基礎学力の維持を目的として入学前準備教育の受講を必須としている。

近畿大学では高大連携・リメディアル教育対策部会を設置し、適宜入学生に関する追跡調査を行い、学部長・事務長に報告したのち、入学センターと協議し、一般入試の定員の見直しを行うとともに、附属及び準附属高等学校の定員と指定校の見直しを行なっている。入学者の知識・技能についての検証は行われているが、思考力・判断力・表現力等の能力や主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については検証しようと試みている。入学者の資質・能力について十分に検証されていないので、検証を行い、その結果に基づき、必要に応じて入学者受入れの改善・向上等を図ることが望まれる。

近畿大学薬学部医療薬学科の入学定員は150名であり、収容定員900名に対して入学者総数は933名、定員の103.7%に相当する受入れであった（基礎資料4）。収容定員数と入学学生数の間に大きな乖離はない。

入試については、各入学者選抜試験の評価点をもとに薬学部学生センター事務長が入学

許可者の原案を作成し、学部会議の審議を経て教授会で承認後、学部案として提案し、学長及び理事長の決済を得て入学許可者が決定されるとしている。入学者数の適正性について全教員で検証し、問題があれば都度、合格者数を調整し改善を図っているとしているが、具体的な方法や手続きは説明されていない。入学者数の適正性について検証する方法を確立し、検証することが望まれる。

## 5 教員組織・職員組織

本項目は、適合水準に達している。

近畿大学は、大学が求める教員像と教員組織の編成方針を定めている。この方針に基づき、薬学部における「求める教員像および教員組織の編成方針」を定め、ホームページで公開している。

薬学部医療薬学科では、基礎薬学研究・教育を担う9研究室、「臨床薬学部門(3分野)」、「教育専門部門」、「教養・基礎教育部門」を設置し、近畿大学の研究所組織の一つである薬学総合研究所の専任教員も加わり、薬学部の講義及び研究室配属された学生の卒業研究指導に当たっている。医療薬学科(6年制)における職階別の教員数は、教授14名(実務家教員は3名;女性教員は1名)、准教授12名(実務家教員は2名;女性教員は2名)、講師11名(実務家教員は3名;女性教員は3名)、助教5名(女性教員は1名)の計42名であり、創薬科学科(4年制)における教授5名、准教授1名、講師7名の計13名と併せて(基礎資料5及び6)、大学設置基準に定める専任教員数である薬学部36名、医療薬学科28名、創薬科学科8名をそれぞれ満たしている。医療薬学科における専任教員の年齢構成は、20-30歳代28.6%、40歳代23.8%、50歳代31.0%、60歳代16.7%とバランスの取れた構成になっている(基礎資料6)。しかし、女性教員の割合は多くはなく、今後、女性教員の割合を増やすように努めることが望まれる。

近畿大学薬学部は、医療薬学科150名、創薬科学科40名、合計190名の入学定員をもち、医療薬学科の収容定員は900名である(基礎資料3-1)。2022年5月現在、学生938名が在籍しており、1名の専任教員に対して学生数は20名を超えることから、10名以内になるようにすることが望まれる。

薬学部の専任教員は、学会活動等から研究上の優れた実績が示されており(基礎資料9)、担当する授業科目(基礎資料7)は、研究に裏打ちされた見識が高い領域があてられている。

カリキュラムにおいて重要と位置付けた必修科目に関しては、非常勤講師が担当する「英

語演習 1～4)、医学部や原子力研究所の教授陣が担当する「臨床医学概論」、近畿大学病院薬剤部の職員が担当する「医療薬学総論」以外はすべて医療薬学科内の専任の教授または准教授が担当し、授業あるいは実習を実施している（基礎資料7）。

薬学部教員の採用及び昇任については、「薬学部・大学院薬学研究科 規程集」に職位や採用領域ごとにその基準が定められている。「近畿大学薬学部教授選考規程」によると、教授の採用は原則公募で行い、学部長の指名を受けた教授により構成される選考委員会を中心に選考を進め、研究内容あるいは実務経験、模擬講義等に関するプレゼンテーションの後、教授会において候補者1名を選考し、学長、理事長に推薦している。准教授、講師、助教、及び助手の採用、再任及び昇任基準は、「近畿大学薬学部専任教員（教授を除く）の採用・昇任基準申し合わせ」等に定められており、職位ごとに設定された研究実績、教育研究の指導能力に関する所属研究室主宰教員からの評価、また、学生からの講義アンケート評価等を昇任の判断材料とし、教授会において審議している。教員の採用情報は、全学のホームページの採用情報及びイノベーション創出を担う研究人材のためのキャリア支援ポータルサイト等を通して公開している。

専任教員は、前年度の教育、研究、管理・運営、社会活動について自己評価する「教員業績評価自己申告表」の提出が義務付けられており、申告表及び評価用参考資料に基づき、6名の幹事会構成員に学部学生センター事務長が加わった教員業績評価部会が各教員の評価（A/B/C）を行っており、その結果が賞与や給与に反映されることから、次世代を担う教員の教育・研究に関するモチベーションの向上、能力向上に寄与しているとしている。さらに、近畿大学は在外研究制度を設け、専任教員に対して渡航・滞在費等を援助しており、評価できる。過去3年間では、医療薬学科に所属する准教授及び講師各1名が本制度を利用して1年間の在外研究を行い、研鑽している。

近畿大学では、独立行政法人科学技術振興機構が提供しているResearchmapを利用して全教員の研究に関する情報を公開しており、定期的に更新している。薬学部の専任教員の研究業績は、所属する研究室及び部門のホームページで公開している。さらに、各年度の活動を研究室・部門ごとに取りまとめて薬学部活動報告集として発行し、過去5年間分は薬学部ホームページから閲覧することができる。

各研究室・部門には、教授室、実験室、セミナー室等が設けられ、配属された学生が研究を行うためのスペースが確保されている。また、卒業研究のための研究室配属人数も各研究室ともおおむね同程度であり、学生に対して公平な研究環境が整えられている（基礎資料8）。

教員1人あたりが担当する講義・実習時間数は約4.7時間/週であり、助教や講師の講義負担は少なく設定し、研究時間を確保している（基礎資料7）。

教育研究費に関しては、各研究室の構成に応じて基礎研究費が配分されている。さらに、発表論文数に応じた追加研究費が配分され、競争的外部資金の獲得に応じて奨励研究費を支給していることは評価できる。

近畿大学は、学術研究支援部が担当して外部研究資金獲得に対する支援・管理を行っており、科研費等の公的研究資金は補助金事務課が、また、受託研究や寄附研究は研究支援課が担当している。さらに、産学官の連携・推進業務は近畿大学リエゾンセンターが担当しており、リエゾンセンターを介したマッチングによる研究資金獲得も行われている。

近畿大学には教育改革推進センターが設置され、授業アンケートの実施・分析・公表、自己点検・評価、第三者評価に関する事項、ファカルティ・ディベロップメント（FD）の開発・導入に関する事項、教員の業績評価方法の改善と促進に関する事項を担当している。この教育改革推進センターが担当して、年に数回、外部有識者によるFD研究集会を行っている。また、新任教員に対しては、着任時及び着任してから半年経過後に研修を実施し、経験の浅い教員に対する教育研究能力の向上を図っている。このセンターとは別に、薬学部では「教育改革・FD推進委員会」を設置し、独自の薬学部FD研修会を開催し、教員の教育及び研究能力の向上を図っている。さらに、教育活動の向上を図るため、「自己点検評価委員会」が中心となって各科目につき2回の授業アンケートを実施し、その結果を反映して授業の改善を図っている。この結果は「学部授業アンケート及び大学院修了生アンケート集計報告」として毎年冊子体にて公表している。

薬学部は国立循環器病研究センター、堺市立総合医療センター及び特定の薬局グループと連携大学院の協定を締結している。これら病院・薬局の臨床現場と共同で臨床薬学研究を推進しており、臨床薬学部門の教授を含めて計6名の教授がこれらの病院、薬局に設置した外部講座の教授を兼任して最新の医療に触れられる環境にある。また、臨床薬学部門の教員は、近畿大学病院や大阪赤十字病院の薬剤部にて最新医療に対応するための研修が行える体制が整備され、研修を行っている。同時に、大学院薬学研究科が主催して「臨床薬学シンポジウム」を開催しており、臨床薬学部門の教員はこのシンポジウムで発表あるいは聴講することにより最新の医療についての見識を深めている。さらに、大学院薬学研究科には「がん専門薬剤師養成コース」が設置されており、臨床薬学部門の教員は医療現場での実習や共同研究等を通じて研鑽を積んでいる。

近畿大学では、薬学部、薬学研究科及び薬学総合研究所を担当する事務組織として、事

務長1名、課長職1名、専任事務職員2名、専任嘱託職員6名の計11名の事務職員が配置され、教職員人事、学部予算管理、教務事務、入試業務、大学院担当業務、施設・設備に関する業務、その他庶務的業務や広報・就職支援業務等を担当している。さらに、東大阪キャンパスには近畿大学キャリアセンターが設置されているが、薬学部独自に就職支援室を設け、就職活動アドバイザー1名を配置し、教員と連携して学生の就職支援を行っている。また、薬用植物園には、専任教員2名、専任職員（技術職）1名が配置され、植物園の維持・管理業務を行う傍ら、学生の課外授業の受け入れや地域住民等に向けた見学会の開催等、学部内外における教育研究活動に寄与している。

## 6 学生の支援

本項目は、適合水準に達している。

近畿大学薬学部医療薬学科における学生相談体制については、入学時から3年後期まで、教員1名あたり各学年3～4名の学生を受け持つ「アドバイザー制度」を設定し、3年後期からは配属された研究室の指導教員が学生にアドバイスをを行っている。休学及び退学については、アドバイザー教員や研究室指導教員を含む教職員2名による面談を必須としており、その結果をシステムに入力し、学生情報を把握している。また、精神的な問題や悩みを抱える学生への相談窓口として、アドバイザー教員や研究室指導教員以外に、各学年に2名ずつの「学年相談員制度」を設けており、必要に応じて、学生指導・留年生対策委員会が学生部と連携を取りながら、メディカルサポートセンターのカウンセラーにカウンセリングを依頼する等の対応をしている。さらに、状況に応じて、Webシステムによるオンライン面談も実施している。また、全学的には、学生生活における悩みや障がい者学生支援などの窓口として学生相談室があり、学生あるいは保護者から具体的な支援申請がなされた場合、学生部と薬学部学生センターの職員、及び教員が面談を行い、協議・対応している。

ハラスメント問題については、近畿大学ハラスメント全学対策委員会の下、薬学部にもハラスメントに関する相談員（男性3名、女性2名）が配置され、対応が必要と判断された場合は、『ハラスメント防止ガイドライン』に示されたフローに基づいて対応している。

近畿大学では、家庭の経済状況に応じて、奨学金及び教育ローンを給付できる制度が整えられており、入学時のガイダンスにおいて本制度を案内し、経済的困窮により学業継続を断念する前に相談することを促している。また、日本学生支援機構、各種財団だけでなく、近畿大学独自の奨学金制度が設けられている。



近畿大学キャリアセンターは、就職活動に必要な情報を記載した「就職手帳」を作成しており、薬学部医療薬学科5年生に配布されている。薬学部内には「薬学部就職支援室」及び「薬学部就職支援委員会」が設置されており、専任常勤事務職員、進路面談のための非常勤職員及び学部専任教員が委員として配置されている。委員会は、企業、病院、薬局、公務員の4部門に分かれており、各部門に精通した委員が種々のキャリア支援を行っている。また、全学的に実施される業界研究会だけでなく、薬学部独自に企業合同研究会、薬局合同研究会、病院合同研究会を毎年開催している。さらに、希望学生を対象として公務員試験対策講座を開講している。4年次には希望職種を調査し、「臨床薬学実務実習」において希望の医療施設あるいは類似の医療施設に実習配属を行い、企業就職希望者には「企業インターンシップ」に参加しやすいように、実習配属期に配慮している。5年次後期には、企業及び病院への就職希望者に対し対面あるいはWebを活用して「個人面談」を実施し、進路指導を行っている。薬学部就職支援チャンネル、専用掲示板や学生携帯電話への直接配信のシステムが構築されており、キャリアサポート、就職支援年間スケジュール、就職支援情報、企業情報、医療施設見学や求人情報を閲覧可能な動画サイトを提供している。

独立した組織である薬学部の学生自治会は、学部への意見や要望を収集するアンケート活動を年1回実施している。集約されたアンケート結果は、幹事会及び学生センター事務長に伝えられ、学部長会談と呼ばれる学部長との意見交換会を毎年度開催しており、学生の意見を教育や学生生活に反映するための意見収集する体制が整備されている。

授業方法・内容・質問等に関して、授業担当教員と意見交換を行う目的で、「オフィスアワー」を設定し、シラバスに掲載している。また、自己点検評価委員会では、教員の授業改善、評価を目的とし、授業の第4回目にアンケートを実施しており、次回の授業で中間フィードバックとして、要望・意見に対してレスポンスしている。さらに、第14回目の授業時に複数の項目にわたる匿名の授業評価アンケートを実施し、アンケート結果は授業担当教員に送付されるとともに、学部内にて学生が閲覧できるよう掲示される。また、授業評価アンケート結果に対する回答書として教員がリフレクションペーパーを作成し、アンケート結果とともに学生が閲覧できるように中央図書館に置かれている。さらに、卒業時アンケートを実施し、学生生活に関する満足度を調査している。

学修上の規則や注意事項等、円滑な学生生活を送るのに必要な情報を掲載した「学生生活ガイドブック」を入学時に学生に配布している。また、学生の研究・実習が安全に行われるように、実験者のための災害防止と応急処置を記した「安全要覧」を新入生オリエン

ーションの際に配布し、学生の注意を喚起している。さらに、「基礎薬科学実習（1年次後期）」に先立ち実習安全講習会を実施し、実習に伴う事故防止を図っている。放射性同位元素を取り扱う学生に対しては、近畿大学原子力研究所が主催するR I施設等利用者のための保安教育・教育訓練、動物実験を行う学生に対しては動物実験新規従事者講習会、遺伝子組換え実験を行う学生に対しては遺伝子組換え実験従事者の健康診断及び遺伝子組換え実験に関する安全講習会、さらに薬学部研究室配属全学生には、薬学部危険物管理・防火委員会と理工学部安全管理・衛生委員会と合同で開催する高圧ガス講習会や排水管理講習会等を受講させている。また、有害物質及び実験動物等を取り扱う研究実験に関して、廃棄物処理依頼方法及び実験動物飼育運営委員会による薬学部廃棄物処理マニュアルにより取り扱いを注意・徹底している。さらに、全学の取り組みとして防災訓練を実施しており、2022年度はコロナ禍のためビデオ資料の閲覧という形で実施している。

学校保健安全法に基づく定期健康診断は毎年4月に実施しており、在学生938名中880名（93.8%）が受診している（基礎資料10表1）。しかし、2・3年生の受診率が低い傾向にあり、改善が望まれる。健康診断の所見で異常が認められる場合には、早期に受診を促している。メディカルサポートセンターには看護師及び薬剤師が常駐し、定期的に医師が配置され、軽度の負傷及び疾病に対応している。さらに、重度の傷病では近隣の医療機関及び近畿大学病院への搬送処置が実施できる体制が整えられている。自動体外式除細動器（AED）はキャンパス内の26か所に設置され、薬学部学生が利用する38号館及び39号館には各1台が設置されている。

入学生に対しては、1年次4月期に血液検査（麻疹、風疹、水痘、帯状ヘルペス、ムンプス、HCV抗体、HBS抗体、ツベルクリン）を実施し、「早期体験学習」及び「臨床薬学実務実習」の受講に際して安全を担保している（基礎資料10表2）。また、全学生を対象にコロナ感染対策として、2021年度夏季から2022年度にワクチンの職域接種を実施しており、さらにメディカルサポートセンターで常時の抗原検査（陽性者にはPCR検査）を実施している。学生団体活動には、政府あるいは大阪モデルのコロナ感染対策に応じた6区分に対応した活動制限を設けており、活動基準が変更されるごとに団体指導者へ周知を行っている。

全学生は学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険に加入しており、在学中の傷病について、保険制度が適用される。また、医療薬学科の学生は、「臨床薬学実務実習」における学生個人の法律上の賠償責任や受入機関の法律上の賠償責任に対する補償制度として賠償責任保険に加入している。

新型コロナ禍における経済的困窮に対する経済的支援として、近畿大学におけるコロナ対策緊急奨学金を新設し、学生支援緊急給付金制度とともに学生に周知している。また、新型コロナ感染予防のため授業実施形態のWeb化に伴い、全学生を対象として2020年6月に自宅学修支援金を給付し、Web環境の整備等を促した。しかし、経済的理由による退学者・除籍者をなくすには至っていない。

万一の事故や災害の発生時に備えて、大学内で防災本部を組織し、「学校法人近畿大学防火・防災管理規程」を作成し、ホームページには緊急時のマニュアルを掲載して、緊急時の連絡体制を整えている。また、薬学部校舎内における避難経路を図示した防災マニュアルを作成し、教職員及び学生に災害発生時の対処方法や緊急マニュアル等を周知している。さらに、年に1回、大学本部が学生及び教職員に対して防災訓練をオンラインで実施している。

## 7 施設・設備

本項目は、適合水準に達している。

近畿大学薬学部は東大阪キャンパスにあり、1学年の定員が医療薬学科150名、創薬科学科40名である。薬学部は39号館と38号館の一部を使用しており、200名を超える定員の講義室が3部屋、130名前後の定員の講義室が4部屋あり、1部屋の小講義室と2部屋のセミナー室と併せて、授業を受講するうえで十分な講義室を備えている。情報科学系の授業や実習、C B Tには39号館内の専用の講義室（202教室）を利用しており、場合によっては38号館の情報処理実習室も利用している（基礎資料11-1、11-2）。実験系の実習には、化学系実習室及び生物系実習室を各2部屋備えている（基礎資料11-1）。

動物実験施設については、39号館に薬学部・理工学部共用のS P F実験動物飼育室及びコンベンショナル実験動物飼育室を設置しており、動物実験を伴う学生実習や卒業研究活動に利用している（基礎資料11-2）。

薬用植物園は、東大阪キャンパス近隣に設置しており、約420種（基礎資料11-1）の薬用植物を管理栽培し、「薬用資源学」や「漢方薬学」等の講義・実習において薬学部生の教育に活用しているほか、一般市民にも開放し、見学会や公開講座等の活動も行っている（資料142見学会タブ、イベントタブ等）。

図書室については、中央図書館及びアカデミックシアター内のビブリオシアターが設置されている。利用可能時間は、開講期の月曜日～土曜日は8:45～22:00、閉講期の月曜日～土曜日は9:00～18:00、日祝日は10:00～18:00である。中央図書館は、閲覧座席数2,098席

であり、学生収容定員数の約8.7%となっている（基礎資料12）。図書1,428,445冊（うち開架図書759,908冊）、総定期刊行物12,572種類、視聴覚資料5,287点を所蔵している。さらに、電子ジャーナルのタイトル数は84,380である（基礎資料13）。電子媒体による各種の学術資料は中央図書館（電子図書館サービス）で管理されており、図書館のホームページから検索し、アクセスすることができる。デジタル化された学内出版物や所蔵絵図類、アーカイブス、84,380誌の電子ジャーナルや電子ブック、各種データベース、教育研究成果（学術成果リポジトリ）等が利用可能である（基礎資料13）。学生は学内外から学内ネットワークを介し、これらの電子図書館サービスを利用できる。

全学の学生向けの自習室は、3号館のアカデミックシアターに備えられており、24時間開放され、一部は女性専用仕様となっている。（基礎資料12）。薬学部の学生向けには、39号館に学生自習室があり（基礎資料11-1）、学生相談室も自習室として利用されている。講義に利用されていない時間帯には講義室を自習室として開放している。

実務実習事前学習やOSCEを実施するため、39号館には調剤室、製剤室、無菌設備、演習室を、31号館には模擬薬局、模擬病室等を設置している（基礎資料11-1）。また、フィジカルアセスメント実習用に、バイタルチェックシミュレーターやフィギュアを備えている。

医療薬学科の学生は3年次後期より、薬学総合研究所を含めた21の研究室あるいは部門のいずれかに配属され卒業研究を実施している。各研究室はおおむね190～200㎡程度の広さで、1学年あたり2～10名が配属され、研究に必要な器具・機器類は整備されている（基礎資料8、基礎資料11-2）。38号館と39号館内にそれぞれ共同研究室や共同機器室が複数設けられており（基礎資料11-2）、38号館には大型機器（NMR、MS、X線回折計等）類を管理する全学の共同利用センター、原子力研究所内にはRI教育研究施設があり、放射性同位元素を用いた卒業研究や学生実習に使用されている。このように研究設備面は良好な環境にある。

## 8 社会連携・社会貢献

本項目は、適合水準に達している。

近畿大学は社会連携・社会貢献に積極的に取り組んでいる。学術研究支援部のもとにリエゾンセンターを設置し、大学発ベンチャー企業の支援を行っており、薬学部の2学科からそれぞれ教員1名がリエゾンセンター所員を兼務している。このセンターが主導して大学発ベンチャー（資料153、資料154）や企業との提携・連携を推し進めている。実際に、

薬学部の一部の教員による研究成果が商品化された例もある。

医療及び薬学の発展を図る活動として、薬学部専任教員が大会長や準備委員長、実行委員長等として各種学会やシンポジウム等を開催している。

薬剤師の資質向上を図る活動として、薬学部の生涯教育研修委員会と日本薬剤師研修センターとの共催で、年3回の「生涯教育研修会」を実施している。

さらに、大阪府薬剤師会や大阪府病院薬剤師会と連携し、「薬剤師のための予防接種研修プログラム」や「薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習会」、「注射薬の混合調製講習会」、「在宅医療のための無菌室利用講習会」、「患者急変時対応講習会」を開催している。

近畿大学薬学部は、同大学医学部、大阪公立大学医学部、関西医科大学と連携し、大阪府医師会、大阪府薬剤師会、大阪府病院薬剤師会、大阪府看護協会、大阪府薬務課の協力を得て、「NPO法人近畿がん診療推進ネットワーク」を立ち上げ、大阪のがん医療の均てん化や水準向上に貢献しており、評価できる。さらに、医療薬学科教員が関西広域連合資格試験・免許課と連携して登録販売者試験委員に、大阪府薬剤師会学術研修課と連携して薬学生実務実習受入対策委員会の委員に任命され、学校薬剤師業務や附属小学校児童への「おくすり教室」等を実施している。また、薬用植物園では見学会を開催している。さらに、薬学総合研究所及び薬学部教員が主体となり、医学部をはじめとする他学部教員とともに「近畿大学アンチエイジングセンター」を運営しており、「市民公開講座」を開講している。

近畿大学薬学部は、学部ホームページの一部を英語版で開設している。

近畿大学は、海外の271の大学や機関と協定を締結し、交流を図っている。学生の留学に関しては、短期語学研修制度があり、2022年度は薬学部医療薬学科の学生1名がこの制度を利用した。薬学部は、中国薬科大学（中国）、瀋陽薬科大学（中国）、及びラジャマンガラ工科大学（タイ）と学術交流協定を結び、交流を行っている。医療薬学科では、2年生から5年生を対象として、ハワイ大学薬学部での短期海外研修プログラムを実施していたが、新型コロナウイルス感染症の関係から、現在は中止している。2018（平成30）年度には学生5名が参加し、終了後に報告会を実施した。また、2019年度には医療薬学科の学生2名及び創薬科学科の学生1名と一緒に、マギル大学（カナダ）での短期研修を行っている。さらに、2019年度にはチェンマイ大学（タイ）から薬学部5年生3名を短期留学生として受け入れた。

教員の在外研究については、在外研究制度が整っており、2019年度から2020年度にかけて講師2名がチェンマイ大学（タイ）及びカルフォルニア大学サンディエゴ校（アメリカ）

に留学した。さらに、2023年度には講師1名がマギル大学（カナダ）での在外研究を予定している。

近畿大学は、海外での進学説明会へ参加し、外国人留学生入学試験を実施している。薬学部医療薬学科では過去5年間で47名の志願者があり、12名が入学している。また、グローバルエデュケーションセンターが留学生の生活面でのサポートを行い、特待生制度や奨学金制度を設け、キャリアセンターが就職活動への支援も行っている。

#### IV. 大学への提言

##### 1) 長所

1. 近畿大学は在外研究制度を設け、専任教員に対して渡航・滞在費等を援助しており、評価できる。（5. 教員組織・職員組織）
2. 発表論文数に応じた追加研究費が配分され、競争的外部資金の獲得に応じて奨励研究費を支給していることは評価できる。（5. 教員組織・職員組織）
3. 近畿大学薬学部は、同大学医学部、大阪公立大学医学部、関西医科大学と連携し、大阪府医師会、大阪府薬剤師会、大阪府病院薬剤師会、大阪府看護協会、大阪府薬務課の協力を得て、「NPO法人近畿がん診療推進ネットワーク」を立ち上げ、大阪のがん医療の均てん化や水準向上に貢献しており、評価できる。（8. 社会連携・社会貢献）

##### 2) 助言

1. アセスメント・ポリシーには、教育課程をアセスメントするための評価指標が記載されているが、その指標の一つとなる、個々の学生の学修成果の達成度を学生自身ができるように確認するか、については記載が明確ではないので、学生に対してわかりやすく伝わるように表記し、カリキュラム・ポリシーに記載することが望ましい。（1. 教育研究上の目的と三つの方針）
2. カリキュラム・ポリシーに記載されている学習方法や評価方法は、学習の質を重視し、学生のパフォーマンスと整合する学習・教授方法及び、成績評価の方法を設定してカリキュラム・ポリシーに記載しているというには具体的ではないので学ぶべき資質・能力が身につく適切な学習・教授方法及び、評価方法を適切に設定してカリキュラム・ポリシーに記載することが望ましい。（1. 教育研究上の目的と三つの方針）
3. 薬学において重要と考えられる「生化学」や「微生物学」、「免疫学」等が「選択必修

科目」となっている。これらの科目は履修指導によって全員が履修しているが、履修しない学生や合格しないまま卒業する学生が出てくる可能性があることから、薬学において重要と考えられる科目群は「必修科目」として開講することが望ましい。(3. 薬学教育カリキュラム 3-1 教育課程の編成)

4. 教員による評価については、客観性や信頼性が十分に担保されていないので、教員間で評価基準を一致させるような努力が望まれる。(3. 薬学教育カリキュラム 3-3 学修成果の評価)
5. 学修成果の評価結果の解析に基づき、教育課程の編成及び実施の改善・向上をさらに推し進めることが望まれる。(3. 薬学教育カリキュラム 3-3 学修成果の評価)
6. 「推薦入試」では学力の3要素の一つである「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」や医療人を目指す者としての資質・能力について面接試験を通して評価しているが、「一般入試」ではその評価が十分に行われていないので、適切に評価することが望まれる。(4. 学生の受入れ)
7. 入学者の資質・能力について十分に検証されていないので、検証を行い、その結果に基づき、必要に応じて入学者受入れの改善・向上等を図ることが望まれる。(4. 学生の受入れ)
8. 女性教員の割合は多くはなく、今後、女性教員の割合を増やすように努めることが望まれる。(5. 教員組織・職員組織)
9. 1名の専任教員に対して学生数は20名を超えることから、10名以内になるようにすることが望まれる。(5. 教員組織・職員組織)
10. 2・3年生の健康診断受診率が低い傾向にあり、改善が望まれる。(6. 学生の支援)

### 3) 改善すべき点

1. アドミッション・ポリシーには、どのような学生を求めるのかについて記載されているが、複数の選抜試験によって多様な学生をどのように評価・選抜するか等については具体的な記載がないので、アドミッション・ポリシーに記載する必要がある。(1. 教育研究上の目的と三つの方針)
2. 医療薬学科の「学習・教育目標」や三つの方針を定期的に検証するための指標や計画を立て、明文化し、検証する必要がある。(1. 教育研究上の目的と三つの方針)
3. 「近畿大学自己点検・評価委員会」が行っている「全学自己点検評価資料」に記載された、薬学部医療薬学科の教育内容に関する自己点検・評価の結果は公開されていない

いので、これらをホームページ等で公開する必要がある。(2. 内部質保証)

4. 4年次の「総合演習Ⅰ」では、外部試験を利用して成績を評価しているので、授業を担当した学内教員による試験に変更するように、改善する必要がある。(3. 薬学教育カリキュラム 3-2 教育課程の実施)



## V. 認定評価の結果について

近畿大学薬学部医療薬学科（以下、貴学）は、2022年度に本機構の、「薬学教育評価 評価基準」（以下、「評価基準」）に基づく6年制薬学教育プログラムの自己点検・評価を実施し、「薬学教育評価申請書」を本機構に提出しました。

I～IVに記載した内容は、貴学が自己点検・評価の結果により作成し本機構に提出した「調書」（「自己点検・評価書」及び「基礎資料」）と添付資料に基づいて行った本評価の結果をまとめたものです。

### 1) 評価の経過

本評価は、本機構が実施する研修を修了した4名の評価実施員（薬学部の教員3名、現職の薬剤師1名）で構成される評価チームによるピア・レビューを基本にして行いました。

まず、書面調査として、個々の評価実施員が「調書」に基づいて「評価基準」の達成状況を検証して所見を作成し、それらを評価チーム会議で検討して評価チームの所見をとりまとめました。評価チームは、書面調査の所見を整理した結果に貴学への質問事項などを加えた「評価チーム報告書案」を作成し、これを貴学に送付して、「評価チーム報告書案」に対する確認および質問事項への回答（第1回目のフィードバック）を求めました。

評価チームは、貴学からの回答と追加された資料、並びに「評価チーム報告書案」に対する意見を検討して「評価チーム報告書案」の所見を修正し、その結果を踏まえて、訪問調査を実施しました。訪問調査では、書面調査では十分に評価できなかった点を含めて貴学の6年制薬学教育プログラムの状況を確認することを目的に、「訪問時間閲覧資料」の閲覧、施設・設備見学と授業参観、大学関係者・若手教員との意見交換、並びに学生との面談を行いました。訪問調査を終えた評価チームは、訪問調査で得た情報と書面調査の所見を総合的に検討し、「評価チーム報告書」を作成して評価委員会に提出しました。

「評価チーム報告書」の提出を受けた評価委員会は、評価チームの主査を含めた拡大評価委員会を開いて、評価チームの判断を尊重しつつ、「評価結果」に大学間での偏りが生じないことに留意して「評価チーム報告書」の内容を検討し、「評価報告書（評価委員会案）」を作成しました。次いで、評価委員会は「評価報告書（評価委員会案）」を貴学に送付し、事実誤認あるいは誤解を生じる可能性がある表現などに対する「意見申立て」（第2回目のフィードバック）の機会を設けましたが、貴学からの「意見申立て」はありませんでした。

評価委員会は、拡大評価委員会を開催し、「評価報告書原案」を作成し総合評価評議会に提出しました。

本機構は、外部有識者を含む評価の最高意思決定機関である総合評価評議会において「評価報告書原案」を慎重に審議し、「評価報告書」を決定し、理事会に報告しました。

本機構は、「評価報告書」を貴学に送付するとともに社会に公表し、文部科学省及び厚生労働省に通知します。

なお、評価の具体的な経過は「3）評価のスケジュール」に示します。

## 2) 「評価結果」の構成

「評価結果」は、「Ⅰ. 総合判定の結果」、「Ⅱ. 総評」、「Ⅲ. 『項目』ごとの概評」、「Ⅳ. 大学への提言」で構成されており、それらの意味は以下の通りとなっています。

「Ⅰ. 総合判定の結果」には、貴学の薬学教育プログラムが総合的に本機構の「評価基準」に適合しているか否かを記しています。

「Ⅱ. 総評」には、本機構の「評価基準」に対する貴学の達成状況を簡潔に記しています。

「Ⅲ. 『項目』ごとの概評」には、「評価基準」を構成する項目1、2、3-1、3-2、3-3、4、5、6、7、8について、【基準】に対する達成状況の概要を記しています。

「Ⅳ. 大学への提言」は、「評価結果」に関する本機構からの特記事項で、「1) 長所」、「2) 助言」、「3) 改善すべき点」に分かれています。

「1) 長所」は、貴学の特色となる優れた取り組みと評価されたものを記載しています。

「2) 助言」は、「評価基準」を達成する最低要件は満たしているが、目標を達成するためには改善が望まれることを示すものです。「助言」の内容に対する改善の実施は貴学の判断に委ねますが、個々の「助言」への対応状況についての報告書の提出が必要です。

「3) 改善すべき点」は、「評価基準」が求める最低要件を満たしていないと判断された問題点で、貴学に対して「評価基準」を達成するための改善を義務づけるものです。「改善すべき点」については、早急に改善に取り組み、「評価基準」を達成したことを示す成果を「提言に対する改善報告書」として所定の期限内に本機構に提出することが必要です。

なお、本「評価結果」は、貴学の「自己点検・評価書」及び「基礎資料」に記載された2022年度における薬学教育プログラムを対象にして、書面調査並びに訪問調査において確認した状況に基づいて作成したものであるため、現時点ではすでに改善されている点が提言の指摘対象となっている場合があります。また、別途提出されている「調書」の誤字、脱字、数値の誤記などに関する「正誤表」は、本「評価報告書」及び「調書」を本機構のホームページに公表する際に、合わせて公表します。

### 3) 評価のスケジュール

貴学の薬学教育プログラム評価を以下のとおり実施しました。

- 2022年2月1日 本評価説明会\*を実施
- 2023年3月7日 貴学より調書の草案の提出。機構事務局は内容を確認
- 3月29日 機構事務局より貴学へ草案の確認終了を通知
- 4月5日 貴学より「薬学教育評価申請書」の提出
- 4月25日 貴学より評価資料（調書及び添付資料）の提出  
評価実施員は評価所見の作成開始
- ～6月30日 主査は各実施員の評価所見を基に「評価チーム報告書案」の原案を作成
- 7月7日 評価チーム会議を開催し、主査の原案を基に「評価チーム報告書案」を作成
- 7月25日 評価チームは「評価チーム報告書案」を機構事務局へ提出  
機構事務局より貴学へ「評価チーム報告書案」を送付
- 8月17日 貴学より「「評価チーム報告書案」に対する確認および質問事項への回答」の提出
- 8月31日 評価チーム会議\*を開催し、貴学からの「「評価チーム報告書案」に対する確認および質問事項への回答」を検討し、訪問時の調査項目を確認
- 10月16日・17日 貴学への訪問調査実施
- 11月2日 評価チーム会議\*を開催し、「評価チーム報告書」を作成
- 11月20日 「評価チーム報告書」を評価委員会へ提出
- 11月29日・30日 評価委員会（拡大）を開催し、「評価チーム報告書」を検討
- 12月18日 評価委員会（拡大）\*\*を開催し、「評価報告書（評価委員会案）」を作成
- 2024年1月4日 機構事務局より貴学へ「評価報告書（評価委員会案）」を送付
- 1月18日 貴学より「意見申立書」の提出（意見申立てなし）
- 2月5日 評価委員会（拡大）\*\*を開催し、「評価報告書原案」を作成
- 2月20日 「評価報告書原案」を総合評価評議会へ提出
- 3月1日 総合評価評議会を開催し、「評価報告書」を決定
- 3月〇日 機構事務局より貴学へ「評価報告書」を送付

\*はオンラインで、\*\*は対面とオンラインのハイブリッド形式で実施しました。

### 4) 提出資料一覧

(調書)

自己点検・評価書

薬学教育評価 基礎資料

(根拠資料)

提出資料一覧（様式2-1、 2-2）を以下に転載

追加資料一覧 を以下に転載

(様式 2 - 1)

## 薬学教育評価 提出資料一覧

大学名 近畿大学

資料 No.	必ず提出する添付資料	自由記入欄 (当該項目の控など)
資料 1	近畿大学薬学部 2023	
資料 2	薬学部履修要項 令和 3 年度 入学生用	項目 1、2、3、 5、6
資料 3	薬学部履修要項 令和 4 年度 入学生用	項目 1、2、3、 5、6
資料 4	新入生および各学年ガイダンス資料	項目 1、3
資料 5	2022 年度薬学部医療薬学科シラバス	項目 3、6
資料 6	令和 4 年度薬学部時間割	項目 3
資料 7	実習終了時評価表	項目 3
資料 8	8-1 令和 5 年度 入学試験要項 8-2 令和 5 年度 特別推薦入学試験要項 8-3 令和 5 年度 附属高等学校特別推薦入学試験要項 8-4 令和 5 年度 指定校推薦入学試験要項 8-5 2023 (令和 5) 年度【学部】外国人留学生入学試験要項	項目 1、4

資料 No.	根拠となる資料・データ等 (例示)	自由記入欄 (当該項目の控など)
資料 9	近畿大学学則 (p. 264-265) (p279-281)	項目 1
資料 10	教育理念 (薬学部 HP) <a href="https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/about/undergraduate/principle/">https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/about/undergraduate/principle/</a>	項目 1
資料 11	薬学部の教育方針 (薬学部 HP) <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/pharmacy/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/undergraduate/pharmacy/</a>	項目 1、4
資料 12	カリキュラムツリー、カリキュラムおよびナンバリング (薬学部 HP) <a href="https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/department/medical/curriculum/">https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/department/medical/curriculum/</a>	項目 1
資料 13	学修ポートフォリオ	項目 1、2、3

資料 14	「3 つのポリシー」の見直しについて	項目 1
資料 15	新旧対照表【薬学部医療薬学科】	項目 1
資料 16	【自己点検】外部評価委員のコメントと卒業アンケートの集計結果	項目 1, 2
資料 17	近畿大学自己点検・評価委員会規程	項目 2
資料 18	令和 4 年度 薬学部委員会委員一覧	項目 2, 4, 5, 6
資料 19	内部質保証方針 <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/policy/quality/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/policy/quality/</a>	項目 2
資料 20	アセスメント・ポリシー <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/assessment-policy/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/assessment-policy/</a>	項目 2
資料 21	学習成果の評価計画	項目 2, 3
資料 22	令和 3 年後学部長会談議事録、令和 4 年後学部長会談議事録	項目 2, 6
資料 23	卒業アンケート	項目 2
資料 24	Moodle でのアンケート設定方法・中間アンケートの実施について	項目 2, 5
資料 25	令和 4 年度 授業評価アンケート実施要領・令和 4 年度 薬学部授業評価アンケートの実施について(お願い)	項目 2, 5, 6
資料 26	令和 3 年度 卒業アンケート集計結果	項目 2, 6
資料 27	平成 29 年度～令和 3 年度 卒業アンケート経年変化	項目 2
資料 28	マイステップフォロー	項目 2, 3
資料 29	自己点検・自己評価の公開 入学年度別 進級者数・標準年限内の卒業生数・卒業(留年)率 <a href="https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/research-and-education/pickup/self-assessment/">https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/research-and-education/pickup/self-assessment/</a>	項目 2, 3
資料 30	自己点検・評価書 平成 27 年 5 月 近畿大学薬学部	項目 2
資料 31	薬学教育評価 評価報告書 近畿大学薬学部	項目 2
資料 32	近畿大学 薬学部 活動報告集 (令和 3 年度)	項目 2, 5
資料 33	授業評価アンケート <a href="https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/research-and-education/pickup/enquete/">https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/research-and-education/pickup/enquete/</a>	項目 2
資料 34	薬学部 6 年制学科における修学状況	項目 2
資料 35	卒業アンケート <a href="https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/research-and-education/pickup/graduation-enquete/">https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/research-and-education/pickup/graduation-enquete/</a>	項目 2
資料 36	2022 年度 CBT 対策実施予定・2022 年度国家試験対策実施予定と方	項目 2

	法(学生版)	
資料 37	令和 4 年度薬学部医療薬学科 6 年生時間割【別紙】	項目 3-2
資料 38	ループリック評価表 (フィジカルアセスメント)	項目 3-2
資料 39	ループリック評価表 (実務実習事前学習)	項目 3-2
資料 40	実務実習事前学習書 2022 年度 (4 年次 後期)	項目 3-2
資料 41	2022 年度 実務実習事前学習記録	項目 3-2
資料 42	薬学部学生の薬局実習に関する契約書(案)・薬学部学生の病院実習に関する契約書(案)	項目 3-2
資料 43	臨床薬学実務実習における行動規範および身だしなみ 個人情報等の保護、病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する誓約書	項目 3-2
資料 44	薬学実務実習に関するガイドライン (p2-3) 3) 大学、病院、薬局の連携、(大学の実習への関与)	項目 3-2
資料 45	2023 年度各府県における連絡会日程の状況及び大学委員の担当者	項目 3-2
資料 46	臨床薬学実務実習 施設訪問指導マニュアル(2022 年版)	項目 3-2、3-3
資料 47	病院薬局実務実習 指導教員報告書	項目 3-2
資料 48	実務実習報告会プログラム	項目 3-2、3-3
資料 49	2021 年度 臨床薬学実務実習発表プログラム	項目 3-2、3-3
資料 50	病院薬局実務実習評価基準一覧	項目 3-2、3-3
資料 51	第 2 回 基礎ゼミ～令和 4 年度のテーマ～「健康づくり」	項目 3-2
資料 52	2022 年度 第 1 回薬学部 FD 研修会の開催について(ご案内) 2022 年度 第 2 回薬学部 FD 研修会の開催について(ご案内)	項目 3-2、5-2
資料 53	先生！わかりませ～ん！	項目 3-2
資料 54	総合薬学研究 1～3 の成績評価表・総合薬学研究 1～3 の評価基準	項目 3-2、3-3
資料 55	令和 4 年度前期成績照会期間について	項目 3-2
資料 56	留年生ガイダンスのご案内	項目 3-2
資料 57	令和 4 年度 直上級年次科目履修規定及び先修科目一覧	項目 3-2
資料 58	令和 4 年度 薬学部リメディアル講義(化学) 令和 4 年度 薬学部 生物関連講義スケジュール	項目 3-2
資料 59	【重要】2022 年度前期科目未履修該当学生面談のお願い	項目 3-2
資料 60	【重要】ポートフォリオ作成周知のお願い	項目 3-2
資料 61	薬学実務実習 (令和 2 年度) 第 1 回説明会	項目 3-2
資料 62	2022 年度 履修ガイダンス 卒延生	項目 3-2
資料 63	薬学部学習ポートフォリオの入力方法	項目 3-3
資料 64	学修ポートフォリオ登録マニュアル	項目 3-3

資料 65	ディプロマ・ポリシー到達度評価表	項目 3-3
資料 66	基礎ゼミ実施要領(案)	項目 3-3
資料 67	基礎ゼミ個人成績評価表	項目 3-3
資料 68	基礎ゼミ成績評価表 (入力方法)	項目 3-3
資料 69	レポートの評価 (早期体験学習)	項目 3-3
資料 70	レポートについて (生命倫理)	項目 3-3
資料 71	総合薬学研究 1 レポート 令和 4 年度	項目 3-3
資料 72	総合薬学研究 2 報告書 令和 4 年度	項目 3-3
資料 73	総合薬学研究 2 発表会プログラム(作成例)	項目 3-3
資料 74	卒業論文発表の評価基準	項目 3-3
資料 75	2022 年度 実務実習指導・管理システム(WEB システム)等利用指針	項目 3-3
資料 76	2022 年度 薬学共用試験 CBT 実施の手引き/実施マニュアル	項目 3-3
資料 77	2022 近畿大学薬学部 OSCE プログラム	項目 3-3
資料 78	近畿大学薬学部の 2021 年度薬学共用試験の結果を掲載しました。 <a href="https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/news/topics/2022/04/035454.html">https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/news/topics/2022/04/035454.html</a>	項目 3-3
資料 79	令和 5 年度 近畿大学 入学試験実施本部	項目 4
資料 80	近畿大学大学協議会規程	項目 4
資料 81	令和 5 年度 附属高等学校特別推薦、指定校・協定校推薦入学試験 口頭試問評価シート	項目 4
資料 82	受験および修学上の配慮 要望書	項目 4
資料 83	薬学部への自由受講講座のご案内	項目 4
資料 84	2023 年度 プレエントランス・ガイダンス実施	項目 4
資料 85	近畿大学が求める教員像および教員組織の編制方針 <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/policy/teachers_image/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/policy/teachers_image/</a>	項目 5
資料 86	教員・学生の受賞歴	項目 5
資料 87	採用情報 <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/employment/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/employment/</a>	項目 5
資料 88	近畿大学研究休暇制度に関する規程	項目 5
資料 89	平成 31 年度 在外研究応募者報告書・令和 2 年度 在外研究応募者 報告書	項目 5
資料 90	researchmap の更新について	項目 5
資料 91	研究室紹介 <a href="https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/research-and-">https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/research-and-</a>	項目 5



	education/laboratory/	
資料 92	薬学部_リリース掲載紙集計 (2021-2023)	項目 5
資料 93	TOPICS (受賞歴)	項目 5
資料 94	自己点検・自己評価の公開 近畿大学薬学部 活動報告書について <a href="https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/research-and-education/pickup/self-assessment/">https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/research-and-education/pickup/self-assessment/</a>	項目 5
資料 95	学校法人の事務組織図	項目 5
資料 96	リエゾンセンターとは <a href="https://www.kindai.ac.jp/liaison/about/introduction/">https://www.kindai.ac.jp/liaison/about/introduction/</a>	項目 5
資料 97	令和 4 年度 新任教員研修会の開催について(お知らせ)	項目 5
資料 98	薬学研究科履修要項 令和 4 年度 近畿大学大学院 (p32-35)	項目 5
資料 99	薬学実務実習への薬学部臨床教員同行についてお願い	項目 5
資料 100	薬剤部における薬学部実務家教員の受け入れについて (依頼)	項目 5
資料 101	第 4 回 近畿大学大学院 臨床薬学シンポジウム	項目 5
資料 102	がん専門薬剤師養成コース	項目 5
資料 103	近畿大学薬学部薬用植物園 目的・概要・インフォメーション <a href="https://www.phar.kindai.ac.jp/yakusouen/info.html">https://www.phar.kindai.ac.jp/yakusouen/info.html</a>	項目 5
資料 104	TA 配置 (案)	項目 5
資料 105	スチューデントプロフィール (UNIPA)	項目 6
資料 106	メディカルサポートセンター (カウンセリング)	項目 6
資料 107	学生相談室 <a href="https://www.kindai.ac.jp/student-affairs/student/counseling/student-counseling/">https://www.kindai.ac.jp/student-affairs/student/counseling/student-counseling/</a>	項目 6
資料 108	近畿大学学園 ハラスメント防止のためのガイドライン	項目 6
資料 109	学費・奨学金等 <a href="https://www.kindai.ac.jp/campus-life/tuition-scholarships/">https://www.kindai.ac.jp/campus-life/tuition-scholarships/</a>	項目 6
資料 110	第 2 回就職ガイダンス (就職手帳)	項目 6
資料 111	就職支援年間スケジュール	項目 6
資料 112	近畿大学薬学部 公務員試験対策講座	項目 6
資料 113	企業就職希望における臨床薬学実務実習施設配属の配慮のお願い	項目 6
資料 114	近畿大学薬学部 就職支援チャンネル	項目 6
資料 115	令和 4 年度就職内定先一覧 医療薬学科(12 期生)3/23 現在	項目 6
資料 116	2022 学生生活ガイドブック	項目 6
資料 117	安全要覧 2022	項目 6

資料 118	【全員参加】実習安全講習会のお知らせ	項目 6
資料 119	衛生化学・放射化学実習（放射化学）	項目 6
資料 120	動物実験および遺伝子組換え実験従事者講習会について	項目 6
資料 121	遺伝子組換え実験従事者対象 血液検査	項目 6
資料 122	（重要）遺伝子組換え実験安全講習会について	項目 6
資料 123	令和 4 年度高圧ガス保安講習会のお知らせ	項目 6
資料 124	排水管理講習会受講について（お知らせ）	項目 6
資料 125	廃棄物質処理依頼方法 <a href="https://www.kindai.ac.jp/rd/research-center/hazardous-substances/how-to-request/">https://www.kindai.ac.jp/rd/research-center/hazardous-substances/how-to-request/</a>	項目 6
資料 126	廃棄物処理マニュアル	項目 6
資料 127	令和 4 年度 防災訓練のご案内	項目 6
資料 128	メディカルサポートセンターご案内	項目 6
資料 129	近畿大学校舎配置図（AED 設置場所）	項目 6
資料 130	【第 1 回接種分】新型コロナウイルスワクチンの接種予約について	項目 6
資料 131	希望者全員に無償で新型コロナウイルスの抗原検査を実施 事前予約なしで自分の好きな時間に検査を受けることが可能に	項目 6
資料 132	新型コロナウイルス感染症対策について(31)	項目 6
資料 133	保険について <a href="https://www.kindai.ac.jp/campus-life/guide/insurance/">https://www.kindai.ac.jp/campus-life/guide/insurance/</a>	項目 6
資料 134	賠償責任保険申込書	項目 6
資料 135	学生支援緊急給付金給付事業（「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』）に係る学生等の選考について(依頼)	項目 6
資料 136	コロナ対策緊急奨学金	項目 6
資料 137	【重要】【近畿大学生のみなさまへ】自宅学修支援金の受取について	項目 6
資料 138	学校法人近畿大学防火・防災管理規程	項目 6
資料 139	緊急時マニュアル <a href="https://www.kindai.ac.jp/campus-life/guide/manual-emergency/">https://www.kindai.ac.jp/campus-life/guide/manual-emergency/</a>	項目 6
資料 140	防災マニュアル	項目 6
資料 141	施設 map（KUDOS 案内）	項目 7
資料 142	近畿大学薬学部 薬用植物園 <a href="https://www.phar.kindai.ac.jp/yakusouen/index.html">https://www.phar.kindai.ac.jp/yakusouen/index.html</a>	項目 7、8
資料 143	中央図書館 <a href="https://www.clib.kindai.ac.jp/">https://www.clib.kindai.ac.jp/</a>	項目 7
資料 144	利用案内（中央図書館）	項目 7

	<a href="https://www.clib.kindai.ac.jp/guide/facilities.html">https://www.clib.kindai.ac.jp/guide/facilities.html</a>	
資料 145	施設利用案内（アカデミックシアター） <a href="https://act.kindai.ac.jp/guidance/">https://act.kindai.ac.jp/guidance/</a>	項目 7
資料 146	シミュレーター（フィジカルアセスメント用フィギュアリスト）	項目 7
資料 147	機器一覧（共同利用センター）	項目 7
資料 148	学内利用案内（原子力研究所） <a href="https://www.kindai.ac.jp/rd/research-center/aeri/guide/internal-use/">https://www.kindai.ac.jp/rd/research-center/aeri/guide/internal-use/</a>	項目 7
資料 149	検索・調べる（中央図書館） <a href="https://www.clib.kindai.ac.jp/search/">https://www.clib.kindai.ac.jp/search/</a>	項目 7
資料 150	リエゾンセンターとは <a href="https://www.kindai.ac.jp/liaison/about/introduction/">https://www.kindai.ac.jp/liaison/about/introduction/</a>	項目 8
資料 151	ベンチャー企業支援 <a href="https://www.kindai.ac.jp/liaison/business/venture/">https://www.kindai.ac.jp/liaison/business/venture/</a>	項目 8
資料 152	所員紹介（2022年4月現在） <a href="https://www.kindai.ac.jp/liaison/staff/">https://www.kindai.ac.jp/liaison/staff/</a>	項目 8
資料 153	(株)ア・ファーマ近大 <a href="https://a-pharma-kindai.co.jp/">https://a-pharma-kindai.co.jp/</a>	項目 8
資料 154	(株)ダイアベティム <a href="http://diabetym.net/">http://diabetym.net/</a>	項目 8
資料 155	PICKUP（企業様の声） <a href="https://www.kindai.ac.jp/liaison/example/pickup/">https://www.kindai.ac.jp/liaison/example/pickup/</a>	項目 8
資料 156	産官学連携商品 1 <a href="https://www.kindai.ac.jp/liaison/example/sankangaku/">https://www.kindai.ac.jp/liaison/example/sankangaku/</a>	項目 8
資料 157	産官学連携商品 2 同上	項目 8
資料 158	第 33 回バイオメディカル分析科学シンポジウム（BMAS2021）	項目 8
資料 159	第 71 回日本薬学会関西支部総会・大会	項目 8
資料 160	第 49 回構造活性相関シンポジウム	項目 8
資料 161	第 142 回日本薬理学会近畿部会	項目 8
資料 162	令和 3 年近畿大学薬学部生涯教育研修会	項目 8
資料 163	近畿大学薬学部生涯教育研修会	項目 8
資料 164	アーリーエクスポージャープログラム <a href="https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/research-and-education/pickup/early-experience/">https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/research-and-education/pickup/early-experience/</a>	項目 8

資料 165	第 109 回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ (薬学教育者ワークショップ) in 近畿(案)	項目 8
資料 166	近畿大学と大阪府薬剤師会による薬剤師のための新型コロナウイルス スワクチン接種研修プログラム	項目 8
資料 167	薬学生のための模擬患者の会 <a href="https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/research-and-education/pickup/practical-training/simulated-patient/">https://www.kindai.ac.jp/pharmacy/research-and-education/pickup/practical-training/simulated-patient/</a>	項目 8
資料 168	教育内容 講習会 (薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習 会、注射薬の混合調製講習会、薬剤師のための患者急変時対応講習 会)	項目 8
資料 169	第 2 回 在宅がん患者に対する輸液調整法講習会 プログラム	項目 8
資料 170	近畿がん診療推進ネットワーク	項目 8
資料 171	関西広域連合登録販売者試験委員・薬学生実習受入対策委員会	項目 8
資料 172	学校薬剤師の委嘱について・附属小学校「おくすり教室」に関する 講師派遣について	項目 8
資料 173	公開講座 <a href="https://www.kindai.ac.jp/rd/research-center/usr/extension-lecture/">https://www.kindai.ac.jp/rd/research-center/usr/extension-lecture/</a>	項目 8
資料 174	アンチエイジング市民公開講座 1	項目 8
資料 175	アンチエイジング市民公開講座 2	項目 8
資料 176	第 11 回薬用植物園見学会	項目 8
資料 177	Introduction of Pharmacy (薬学部ホームページ英語版)	項目 8
資料 178	海外協定校 Sister Schools	項目 8
資料 179	海外留学生 ( 交換・派遣・認定留学) 募集概要	項目 8
資料 180	短期語学研修 (夏期・春期) 英語圏・中国語圏・韓国語圏	項目 8
資料 181	語学研修プログラム薬学部参加学生	項目 8
資料 182	近畿大学薬学部ハワイ大学薬学部 (DKICP) 短期海外研修プログラム 説明会	項目 8
資料 183	近畿大学薬学部ハワイ大学薬学部 (DKICP) 短期海外研修プログラム 発表会	項目 8
資料 184	チェンマイ大学との学術交流協定に基づく学生の受け入れについて	項目 8
資料 185	短期海外研修プログラム (マギル大学) 実施について	項目 8
資料 186	令和 5 年度 在外研究応募者報告書	項目 8
資料 187	外国人留学生入学試験 <a href="https://www.kindai.ac.jp/campus-life/international-">https://www.kindai.ac.jp/campus-life/international-</a>	項目 8

	exchange/foreign-student/exam/	
資料 188	奨学金制度 <a href="https://www.kindai.ac.jp/campus-life/international-exchange/foreign-student/support/scholarship/">https://www.kindai.ac.jp/campus-life/international-exchange/foreign-student/support/scholarship/</a>	項目 8
資料 189	就職活動サポート <a href="https://www.kindai.ac.jp/campus-life/international-exchange/foreign-student/support/career/">https://www.kindai.ac.jp/campus-life/international-exchange/foreign-student/support/career/</a>	項目 8
資料 190	留学生学友会 <a href="https://www.kindai.ac.jp/campus-life/international-exchange/foreign-student/schoolmate/">https://www.kindai.ac.jp/campus-life/international-exchange/foreign-student/schoolmate/</a>	項目 8
資料 191	留学生サポート制度 <a href="https://www.kindai.ac.jp/campus-life/international-exchange/foreign-student/support/system/">https://www.kindai.ac.jp/campus-life/international-exchange/foreign-student/support/system/</a>	項目 8

## 薬学教育評価 訪問時閲覧資料一覧

大学名 近畿大学

訪問時 閲覧資料 No.	訪問時に閲覧を求める資料・データ等 (全大学共通 必須)	備考 (例示) (主な基準・観点)
訪問時 1	評価対象年度の教授会・各種主要委員会議事録	(各【基準】)
訪問時 2	成績判定に使用した評価点数の分布表 (ヒストグラム)	
訪問時 3	授業で配付した資料 (レジュメ)・教材 (指定科目のみ)	
訪問時 4	追・再試験を含む定期試験問題、答案 (指定科目のみ)	【観点 3-2-2-2】
訪問時 5	成績評価の根拠となる項目別採点結果表 (指定科目のみ)	
訪問時 6	評価対象年度のすべての学生の卒業論文	【観点 3-1-1-1】 【観点 3-2-1-1】 【観点 3-3-1-1】
訪問時 7	実務実習の実施に関わる資料	【観点 3-2-1-2】
訪問時 8	薬学臨床教育の成績評価資料	【観点 3-2-1-2】
訪問時 9	学士課程修了認定 (卒業判定) 資料	【観点 3-2-4-3】
訪問時 10	入試問題 (評価対象年度の翌年度の入学生を対象とする入試)	【観点 4-1-1】
訪問時 11	入試面接実施要綱	【観点 4-1-3】
訪問時 12	入学者を対象とする入試結果一覧表 (合否判定資料で、受験者個人の試験科目の成績を含む)	
訪問時 13	学生授業評価アンケートの集計結果	【観点 2-1-2】
訪問時 14	教員による担当科目の授業の自己点検報告書 (学部授業アンケート及び大学院修了生アンケート集計報告)	【観点 2-1-2】 【観点 5-1-4】 【観点 5-2-3】 【観点 6-1-3】
訪問時 15	教職員の研修 (FD・SD) の実施記録・資料 (添付不可の時)	【観点 5-1-4】 【観点 5-2-3】

訪問時 閲覧資料 No.	訪問時に閲覧を求める資料・データ等	備考 (主な基準・観点)
訪問時 16	ガイダンス動画	【観点 1-1-2】 【観点 1-2-5】

訪問時 17	外部評価委員コメント（他大学教員）	【基準 1-3】 【観点 2-1-1】
訪問時 18	全学自己点検評価資料	【観点 2-1-1】 【基準 2-2】
訪問時 19	外部評価委員コメント（卒業生）	【観点 2-1-1】 【観点 2-1-2】 【基準 2-2】
訪問時 20	教員業績評価自己申告表と参考資料	【観点 2-1-1】 【基準 2-2】 【観点 5-1-7】
訪問時 21	中間フィードバック	【観点 2-1-2】 【観点 6-1-3】
訪問時 22	UNIPA の面談記録の例	【観点 2-1-2】
訪問時 23	学修ポートフォリオの入力例	【観点 2-1-2】
訪問時 24	成果報告パワーポイント	【観点 3-2-1-2】
訪問時 25	UNIPA 成績通知の例	【観点 3-2-2-3】
訪問時 26	進級判定資料	【観点 3-2-3-2】 【観点 3-3-1-1】 【観点 3-3-1-3】
訪問時 27	入試打ち合わせ	【観点 4-1-1】
訪問時 28	大学協議会次第（推薦、A、前・中、B、後期）	【観点 4-1-1】
訪問時 29	指定校評定値	【観点 4-1-3】
訪問時 30	入学後学力追跡調査	【観点 4-1-5】
訪問時 31	令和 5 年度昇任及び新規採用教員	【観点 5-1-1】
訪問時 32	過去 5 年間の新規採用教員	【観点 5-1-2】
訪問時 33	教員募集要項	【観点 5-1-4】
訪問時 34	薬学部・大学院薬学研究科規定集	【観点 5-1-6】
訪問時 35	令和 4 年度薬学部予算案	【観点 5-2-2】
訪問時 36	外部資金獲得リスト	【観点 5-2-2】
訪問時 37	就職活動アドバイザー	【観点 5-2-5】

(様式 2-2 別紙)

訪問時閲覧資料 1 の詳細 (様式 2-2 別紙)

大学名 近畿大学

訪問時閲覧資料 No.	訪問時に閲覧を求める資料・データ等	備考 (主な基準・観点)
訪問時 1-1	2022 年度 第一回カリキュラム検討委員会議事録 (20220526)	【基準 1-3】 【観点 3-3-1-3】
訪問時 1-2	2022 年度 第二回カリキュラム検討委員会議事録 (20221115)	【基準 1-3】
訪問時 1-3	2022 年度 第二回教務委員会議事録 (20221115)	【基準 1-3】
訪問時 1-4	2022 年度 教授会議事録 (2022-11-1) ポリシー、推薦入試判定	【基準 1-3】 【観点 4-1-1】
訪問時 1-5	2022 年度 教授会議事録 (2023-1-1)	【基準 1-3】
訪問時 1-6	2022 年度 教授会議事録 (2023-2-3) ポリシー、B 日程入試判定	【基準 1-3】 【観点 4-1-1】 【観点 4-1-5】
訪問時 1-7	令和 4 年度 第 1 回カリキュラム検討委員会医療薬学 科部会議事録 (20230215)	【基準 1-3】
訪問時 1-8	2022 年度 第 2 回自己点検評価委員会議事録 (20221222)	【基準 1-3】 【観点 2-1-1】
訪問時 1-9	2022 年度 第 1 回自己点検評価委員会議事録 (20220419)	【観点 2-1-1】
訪問時 1-10	2022 年度 内部質保証推進委員会議事録 (20220628)	【基準 2-2】
訪問時 1-11	2022 年度 実務実習評価委員会議事録 (20230218)	【観点 3-2-1-2】 【観点 3-3-1-1】
訪問時 1-12	2022 年度 学部会議 (3 月) 議事録 進級判定、後期入試判定	【観点 3-2-3-2】 【観点 3-3-1-1】 【観点 3-3-1-3】 【観点 4-1-1】
訪問時 1-13	2023 年度 教授会議事録 (2023-3-1)	【観点 3-2-3-2】



	進級判定、後期入試判定	【観点 3-3-1-1】 【観点 4-1-1】
訪問時 1-14	2022年度 学部会議（2月-2）議事録 卒業判定、共通テスト前・中判定	【観点 3-2-4-3】 【観点 4-1-1】
訪問時 1-15	2022年度 教授会議事録（2023-2-2） 卒業判定、共通テスト前・中判定	【観点 3-2-4-3】 【観点 4-1-1】
訪問時 1-16	2022年度 メール教授会議事録（2022-7-2）	【観点 3-3-1-1】
訪問時 1-17	2022年度 第一回教務委員会議事録	【観点 3-3-1-3】
訪問時 1-18	2022年度 学部会議（11月）議事録 推薦入試判定	【観点 4-1-1】
訪問時 1-19	2022年度 学部会議（2月-1）議事録 A日程判定	【観点 4-1-1】
訪問時 1-20	2022年度 学部会議（2月-3）議事録 B日程	【観点 4-1-1】
訪問時 1-21	2022年度 教授会議事録（2023-2-1） A日程	【観点 4-1-1】
訪問時 1-22	2020年度高大連携委員会議事録（20210323）	【観点 4-1-5】
訪問時 1-23	2022年度高大連携委員会議事録（20230123）	【観点 4-1-5】
訪問時 1-24	2020年度 教授会議事録（2020-4-2）	【観点 4-1-5】
訪問時 1-25	2021年度 教授会議事録（2021-4-1）	【観点 4-1-5】
訪問時 1-26	2022年度 教授会議事録（2022-10-1）	【観点 4-1-5】
訪問時 1-27	入学センターとの打ち合わせ議事録（20230227）	【観点 4-1-5】
訪問時 1-28	2022年度 教授会議事録（2022-8-1）	【観点 5-1-7】

(様式 2 - 1)

## 薬学教育評価 追加提出資料一覧

大学名 近畿大学

追加資料 No.	根拠となる資料・データ等 (例示)	自由記入欄 (当該項目の控など)
追加 1	令和 5 年度学則	項目 1 質問事項 1
追加 2	近畿大学薬学部 × 北海道医療大学薬学部 包括連携協定	項目 2 質問事項 2
追加 3	大学院 薬学研究科の特色	項目 2 質問事項 2
追加 4	学修ポートフォリオ評価例	項目 2 質問事項 4
追加 5	成績不振学生に対する面談実施要領	項目 2 質問事項 5
追加 6	令和 4 年度実習時間割表	項目 3-1 質問事項 1
追加 7	症例 25 ウィルス感染症	項目 3-2 質問事項 1
追加 8	複合講義案内	項目 3-2 質問事項 1
追加 9	登校日について	項目 3-2 質問事項 3
追加 10	臨床薬学実務実習報告会について	項目 3-2 質問事項 5
追加 11	2023 履修ガイダンス予定表	項目 3-3 質問事項 4
追加 12	後期 学修ポートフォリオの入力について	項目 3-3 質問事項 5
追加 13	2022 年度 GPS-Academic 報告	項目 4 質問事項 4
追加 14	薬学部における「求める教員像および教員組織の編制方針」	項目 5 質問事項 1
追加 15	実務家教員研修記録	項目 5 質問事項 4
追加 16	所属長宛_在外研究等募集通知	項目 5 質問事項 5
追加 17	就職支援年間行事	項目 6 質問事項 1
追加 18	R 4 年度防災訓練通知文	項目 6 質問事項 7
追加 19	近畿大学アンチエイジングセンター	項目 8 質問事項 3
追加 20	アンチエイジングセンター市民公開講座	項目 8 質問事項 3
追加 21	近畿大学薬学部活動報告集 (令和 2 年度)	項目 8 質問事項 5
追加 22	近畿大学薬学部活動報告集 (令和元年度)	項目 8 質問事項 7
追加 23	薬学部留学生入試過去 5 年	項目 8 質問事項 10

(様式2-2)

薬学教育評価 追加訪問時閲覧資料一覧

大学名 近畿大学

訪問時 閲覧資料 No.	訪問時に閲覧を求める資料・データ等 (全大学共通 必須)	備考 (例示) (主な基準・観点)
追加訪問時 1	評価対象年度の教授会・各種主要委員会議事録	(各【基準】)

訪問時 閲覧 資料 No.	訪問時に閲覧を求める資料・データ等	備考 (主な基準・観点)
追加訪問時 2	実務実習施設担当教員登校日面談報告書	項目 3-2 質問事項 3
追加訪問時 3	近畿大学文書保存規程	項目 3-2 質問事項 6
追加訪問時 4	疑義照会例	項目 3-2 質問事項 8
追加訪問時 5	教育改革組織の再編について	項目 3-3 質問事項 1
追加訪問時 6	教育研究改革部門の編成図	項目 3-3 質問事項 1
追加訪問時 7	3つのポリシーに対する見直し(依頼)	項目 3-3 質問事項 1
追加訪問時 8	近畿大学在外研究・出張規程	項目 5 質問事項 5

(様式 2-2 別紙)

追加訪問時閲覧資料 1 の詳細 (様式 2-2 別紙)

大学名 近畿大学

訪問時閲覧資料 No.	訪問時に閲覧を求める資料・データ等	備考 (主な基準・観点)
追加訪問時 1-1	20220526_第 1 回教務委員会議事録	項目 1 質問事項 4
追加訪問時 1-2	平成 29 年度 第 3 回 学部全体会議議事録	項目 2 質問事項 5
追加訪問時 1-3	令和 2 年度第一回カリキュラム検討委員会 (両学科部 会合同) 議事録	項目 3-1 質問事項 4
追加訪問時 1-4	令和 3 年度第 1 回カリキュラム検討委員会議事録	項目 3-1 質問事項 4
追加訪問時 1-5	令和 3 年度第 2 回教務委員会議事録	項目 3-1 質問事項 4
追加訪問時 1-6	平成 31 年 3 月 学部長会議議事録(抄)	項目 5 質問事項 1
追加訪問時 1-7	2021 年度 教授会議事録 (2021-5-1)	項目 5 質問事項 1